

デジタル田園都市国家構想交付金 地方創生拠点整備タイプ (令和6年度当初予算分) 採択事業一覧



デジタル田園都市国家構想
DIGIDEN

内閣府 地方創生推進事務局
内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議事務局

- デジタル田園都市国家構想の実現を図り、地方の社会課題解決・魅力向上の取組を加速化・深化するため、令和4年度補正予算において、「デジタル田園都市国家構想交付金」を創設しました。
- 同交付金の「地方創生拠点整備タイプ」においては、デジタルの活用などによる観光や農林水産業の振興等の地方創生に資する拠点施設の整備などを支援しています。
- このたび、「令和6年度当初予算分」において採択した事業（継続事業のうちR5補正予算により早期執行した事業を含む。）の事業概要を取りまとめました。
- 地域の課題解決等に向けて、当該地域においてどのような拠点施設の整備などを進めるべきか、本資料も参考にいただき、検討を進めていただければと存じます。
- なお、本資料は、事業採択時点に地方公共団体から提出された事業概要をまとめたものであり、事業採択後の過程において変更が生じている可能性がある点にご留意いただきますようお願いいたします。

採択事業一覧①

- 事業開始年度別 採択事業一覧 (注)「間接補助」は民間事業者の施設整備に対する間接補助、「PFI活用」はPFI法に基づく実施される事業を示す。

事業開始	地方公共団体名	事業期間	事業名	間接補助	PFI活用	ページ
継続 R2開始	富山県入善町	R2-R6	海洋深層水と地下水を活かした入善版ローカルイノベーションプロジェクト			8
継続 R3開始	岐阜県	R3-R6	国内最高水準飼養衛生管理環境を有する畜産研究所を核とした高品質畜産物の生産力・生産体制強化プロジェクト			10
	愛知県	R3-R6	愛知県スタートアップ支援拠点整備事業		○	11
継続 R4開始	北海道大樹町	R4-R7	北海道スペースポート整備事業			13
	岩手県盛岡市	R4-R6	将来に向けて盛岡・玉山の「農業」と「ひと」を紡ぐ拠点・（仮称）道の駅もりおか整備事業			14
	宮城県気仙沼市	R4-R6	気仙沼大島賑わい・観光拠点整備事業			15
	群馬県	R4-R7	自然豊かな県立公園拠点整備【県立赤城公園】			16
	山梨県	R4-R6	モノづくりの伝統技術とデジタル技術が織りなす、イノベーション支援拠点整備事業 ～高付加価値製品開発と新規分野への参入～			17
	滋賀県	R4-R8	製造業のスタートアップとイノベーションを促進する、「企業に寄り添うパートナーシップ型工業技術センター」整備事業		○	18
	奈良県天川村	R4-R6	洞川地区拠点施設整備事業			19

採択事業一覧②

- 事業開始年度別 採択事業一覧 (注)「間接補助」は民間事業者の施設整備に対する間接補助、「PFI活用」はPFI法に基づく実施される事業を示す。

事業 開始	地方公共団体名	事業期間	事業名	間接 補助	PFI 活用	ページ
継続 R5開始	岩手県一関市	R5-R6	一関市大東地域の農産物等の魅力を創造・発信する「道の駅」整備事業			21
	岩手県紫波町	R5-R8	地域資源を活かした農村価値向上と人材育成によるまちづくり事業	○		22
	山形県西川町	R5-R7	町のスポーツ「カヌー」を柱としたまちづくりの更なる推進と拠点整備による交流人口拡大加速化事業			23
	福島県	R5-R6	農業短期大学校施設統合整備計画			24
	茨城県笠間市	R5-R6	芸術的資源による拠点再生事業			25
	千葉県南房総市	R5-R6	道の駅の多機能化推進整備事業（総合加工施設建設事業）			26
	新潟県燕市	R5-R6	「子育てするなら燕市で」子どもたちの笑顔あふれる全天候型子ども遊戯施設整備事業			27
	長野県佐久穂町	R5-R6	道の駅を起点とした地域経済創造コミュニティ拠点整備事業			28
	静岡県	R5-R7	静岡県農林技術研究所茶業研究センター『新研究棟・基盤技術研究棟』施設整備計画			29
	愛知県南知多町	R5-R7	師崎港観光センター周辺整備運営事業		○	30
	滋賀県甲賀市	R5-R6	道の駅あいの土山整備事業			31
	兵庫県南あわじ市	R5-R7	道の駅うずしおを核とした地域活性化拠点整備事業			32
	奈良県三郷町	R5-R6	木育推進型インクルーシブ拠点整備事業			33
	島根県松江市	R5-R6	人が集う松江の新たな日常を生み出すプロジェクト「旧日銀松江匠工房整備事業」			34
	島根県邑南町	R5-R6	複合拠点としての道の駅瑞穂再整備事業			35
	山口県長門市	R5-R7	地域産業DX促進拠点施設整備事業			36
	徳島県美波町	R5-R7	うみがめ博物館「カレッタ」を拠点とした地域再生事業			37
	佐賀県上峰町	R5-R6	道の駅「かみみね 為朝市場（仮称）」地域振興施設整備事業			38
	長崎県南島原市	R5-R7	南島原市原城跡世界遺産センター整備事業			39
	熊本県荒尾市	R5-R8	荒尾市ウェルネス拠点施設を中心とした地域経済活性化プロジェクト		○	40

採択事業一覧③

● 事業開始年度別 採択事業一覧 (注)「間接補助」は民間事業者の施設整備に対する間接補助、「PFI活用」はPFI法に基づく実施される事業を示す。

事業開始	地方公共団体名	事業期間	事業名	間接補助	PFI活用	ページ
新規 R6開始	北海道美幌町	R6-R8	美幌みどりの村再整備による滞在型観光推進事業			42
	北海道むかわ町	R6-R7	恐竜化石「カムイサウルス・ジャポニクス（むかわ竜）」を核とした持続可能な地域づくり事業			43
	青森県五戸町	R6-R7	食と健康のまちづくり拠点施設整備事業			44
	岩手県八幡平市	R6-R7	大更駅前賑わい創出拠点整備事業			45
	宮城県白石市	R6-R8	しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による新たな価値を創造する地域防災拠点道の駅しろいし整備事業		○	46
	秋田県美郷町	R6-R7	美郷町子ども子育て支援拠点施設整備事業			47
	山形県朝日町	R6-R8	観光交流拠点施設「朝日自然観コテージ村」再整備による高付加価値化の創出と持続可能な滞在型観光推進事業			48
	茨城県大子町	R6-R8	観光交流施設整備によるにぎわい創出事業			49
	茨城県境町	R6-R8	河岸の街さかい復興プロジェクト～（仮称）境町地域活性化宿泊施設整備事業～	○		50
	群馬県みどり市	R6-R7	滞在型宿泊施設整備事業（国民宿舎サンレイク草木のリニューアル工事）			51
	埼玉県	R6-R8	S A I T A M A ロボティクスセンター（仮称）整備事業			52
	千葉県市原市	R6-R8	チバニアン整備事業			53
	神奈川県相模原市	R6-R7	世界に誇る博物館プラネタリウムを活用した地域活性化事業			54
	富山県	R6-R9	新川こども施設整備・運営事業		○	55
	富山県富山市	R6-R8	富山市総合体育館Rコンセッション事業		○	56
	富山県射水市	R6-R7	射水市道の駅新湊等整備運営事業			57
	富山県入善町	R6-R7	海洋深層水と地下水を活かした入善版ローカルイノベーション拠点整備事業			58
	福井県若狭町	R6-R7	屋内型子どもの遊び場整備事業			59
	愛知県	R6-R8	野生鳥獣捕獲人材の確保・育成拠点整備			60
	愛知県豊橋市	R6-R9	多目的屋内施設を核とした笑顔と活力に満ちたまちのにぎわい創出プロジェクト		○	61
	愛知県大治町	R6-R7	大治町スポーツセンターリノベーション事業			62
	三重県津市	R6-R10	スポーツを核とした人流の創出で活力を生む「つ」のまち活性化プロジェクト			63

採択事業一覧④

● 事業開始年度別 採択事業一覧 (注)「間接補助」は民間事業者の施設整備に対する間接補助、「PFI活用」はPFI法に基づく実施される事業を示す。

事業 開始	地方公共団体名	事業期間	事業名	間接 補助	PFI 活用	ページ
新規 R6開始	京都府	R6-R7	京都府プレミアム中食オープンイノベーションラボ整備事業			64
	兵庫県三木市	R6-R7	住宅団地再生事業 青山7丁目団地再耕プロジェクト交流拠点整備		○	65
	岡山県津山市	R6-R8	歴史と文化の薫る城下町で特別な宿泊体験ができる小規模分散型ホテル「津山城・城下町泊プロジェクト」		○	66
	岡山県笠岡市	R6-R8	広域連携拠点施設（熱利用施設）整備事業			67
	岡山県瀬戸内市	R6-R7	瀬戸内市産業振興拠点施設「地域と人が紡ぐ しごと創造空間」整備事業			68
	岡山県矢掛町	R6-R7	矢掛町アウトドアアクティビティ拠点施設整備事業			69
	広島県東広島市	R6-R8	生活価値創出拠点「福富みらいベース」の整備活用			70
	広島県安芸太田町	R6-R8	道の駅「来夢とごうち」を核とした観光拠点形成事業		○	71
	福岡県川崎町	R6-R9	川崎町道の駅を核とした 多世代が出会い、つながり、交流する〜くらしの真ん中「まちのリビング」創出事業〜			72
	佐賀県唐津市	R6-R7	新唐津曳山展示場（仮称）整備事業			73
	長崎県対馬市	R6-R8	【国境で学ぶ観光拠点】整備事業			74
	熊本県津奈木町	R6-R7	宿泊交流拠点整備による交流促進プロジェクト			75
	大分県由布市	R6-R8	道の駅ゆふいんのリニューアルによる地域の賑わい創出及び情報発信拠点の整備事業			76

地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） —継続事業（R2開始）—

事業概要【海洋深層水と地下水を活かした入善版ローカルイノベーションプロジェクト】

拠点当初

申請者	富山県入善町	初回採択回	令和2年度第1回募集
事業計画期間	R2-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,481,500千円（0千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	町の地域資源である海洋深層水の取水量を増やすため、深層水取水施設や設備を整備し、企業による積極的な事業展開を促進することで、水産業をはじめとした関連産業の雇用の増加を実現し、地域経済の活性化を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	海洋深層水や地下水を活用している民間企業が多く立地し、積極的な事業展開や事業化に向けた取り組みを進めているが、今後の事業展望を踏まえると現在の海洋深層水の取水量では不足している。深層水の取水量を増やすため、新たに深層水取水施設や取水管を含めた設備などを整備し、民間企業へ分水することで、町の水産業をはじめ観光業、商業の振興、雇用の増を目指す。 ○整備内容 精査中		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①海洋深層水を活用する企業の新規雇用者数（+73人） ②海洋深層水を活用する企業の設備投資額 （+13,400,000千円） ③海洋深層水を活用する企業の年間売上高 （+4,240,000千円）	関連URL	https://www.town.nyuzen.toyama.jp/gyosei/chosei/shisaku_keikaku/5/5560.html



地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） —継続事業（R3開始）—

事業概要【国内最高水準飼養衛生管理環境を有する畜産研究所を核とした 高品質畜産物の生産力・生産体制強化プロジェクト】

拠点当初

申請者	岐阜県	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	3,383,994千円(1,526,694千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	畜産研究所の整備と活用により、安全・安心・高品質な「岐阜ブランド畜産物」の価値の創出と国内最高水準の防疫体制による安定した種の供給にて、強固な高品質畜産物の「稼ぐ」生産基盤を構築し、県内農家の生産額増加による所得の向上、市場拡大による新たな担い手の増加につなげ、ひいては県内各地で「稼ぐ」観光地を生み出し、地方創生への相乗効果と好循環を実現する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度 事業費	県の新たな「食・特産物」となり得る「岐阜ブランド畜産物」の創出による畜産業の生産基盤の強化を図り、「食・特産物」の観光コンテンツの強化による地域振興を推進するため、特徴のある種豚や種鶏等の開発及び国内最高水準の衛生環境のもとで安定した種豚等の供給を可能とする畜産研究所を整備し、県内銘柄畜産物の生産を支える。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】建築工事費 1,327,971千円、工事監理費 11,782千円 【建築物と不可分な設備工事】電気設備工事費 141,626千円、機械設備工事費 45,315千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用 開始年度から5か年分 の「KPI増加分の累計」 の目標値	① 種豚供給頭数（+10頭） ② 豚液状精液供給本数（+1,600本） ③ 県内の豚・鶏（肉用）の産出額（+20.4億円） ④ 県産業動物獣医師 採用数（累計）（+10人）		関連URL https://www.pref.gifu.lg.jp/page/174830.html

事業概要【愛知県スタートアップ支援拠点整備事業】

拠点当初

※PFI活用

申請者	愛知県	初回採択回	令和3年度第1回募集
事業計画期間	R3-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	3,125,344千円 (1,942,074千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	本県では、2018年度に「Aichi-Startup戦略」を策定して以来、スタートアップ・エコシステムの醸成につながる取組を急速に拡充してきた。2024年度には、日本最大のスタートアップ支援拠点である「STATION Ai」の整備を予定しており、運営開始後は、この拠点を中核として多くのスタートアップ関係者を巻き込み、引き続き本県が地域産業経済の競争力を維持・強化し産業の集積地として我が国の経済をけん引していくことを目指す。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本施設の整備・運営手法として、民間事業者のノウハウや技術力等を最大限に活用することのできるPFIを導入する。 スタートアップ向けオフィス、実験や試作が可能なテック・ラボ機能等の他、会議室、イベントスペースなど、世界各地の主要スタートアップ支援施設が有する機能を設ける。PFI事業者によるビジネスマッチングや各種支援プログラム、県がMOUを締結し協力関係を構築している海外スタートアップ支援機関のスタートアップ支援サービス、グローバルな情報発信などのソフト事業をワンストップ・ワンルーフで提供するとともに、5G等の各種最先端技術を導入した施設・設備の整備や各種実証実験の場を提供する。		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①本施設における支援対象のスタートアップ数（+900社） ②スタートアップと県内企業との新たな連携件数（+217件） ③スタートアップの起業数（+180社） ④100億円以上の売上規模のスタートアップ創出（+9社）		関連URL https://stationai.co.jp/ https://www.pref.aichi.jp/soshiki/chiho-sosei/0000082498.html

地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） —継続事業（R4開始）—

事業概要【北海道スペースポート整備事業】

拠点当初

※PFI活用

申請者	北海道大樹町	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	3,020,000千円 (680,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ(当初予算分)	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的(効果)	世界中のロケット製造企業が人工衛星を搭載したロケットを打上げることができるロケット射場及びスペースプレーン実験機や小型ジェット機等が着陸できるよう滑走路を延伸することで、地域にロケット製造企業・小型人工衛星製造企業・ドローン等のロボット製造企業、衛星データ利用企業、宇宙用部品製造企業等の航空宇宙関連企業の集積を図り交流人口・経済効果の増加等につなげる。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	世界中のロケット製造企業が人工衛星を搭載したロケットを打ち上げることができるロケット射場を、スペースプレーン実験機や小型ジェット機等が離着陸できる滑走路と併せて整備する。 また、ロケット射場に光通信ネットワークによる低遅延通信設備やセキュリティ設備を整備することで、ロケット遠隔打上時の遠隔操作システムの信頼性向上やセキュリティシステムの高度化を図る。 ○施設整備等の内容(設備整備・用地造成を除く) 組立棟の設備工事等 180,242千円 ○施設整備等の内容(設備整備・用地造成) 設備整備 389,608千円 用地造成 110,150千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①航空宇宙関連企業の進出数(+30社) ②航空宇宙関連雇用創出数(+300人) ③見学者・視察者等の数(+38,000人)	関連URL	https://www.town.taiki.hokkaido.jp/soshiki/kikaku/uchu/hokkaidospaceport.html



申請者	岩手県盛岡市	初回採択回	令和4年度第2回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	632,669千円（28,063千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	産地直売所や飲食店舗、農業振興や地域の魅力発信機能を備えた道の駅を整備するとともに、道の駅内に新たに多様な属性の人のオープンな対話の場として「フューチャーセンター」を設置し、オープンイノベーションを促進することで、道の駅を「稼げる農業の拠点」とし、農畜産物の付加価値の向上や関係人口の増加を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	道の駅において、商品の販売やメニューの提供、情報発信・交流を行うとともに、高校・大学と連携した商品開発や農業の魅力発信を行うことで、農畜産物の高付加価値化を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 8,930千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 3,177千円、機械設備工事費 5,556千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【地域内案内看板設置工事】 10,400千円		 イメージパース
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①玉山地域の新規就農者数(+10人) ②玉山地域の産直年間利用者数(+45,000人) ③フューチャーセンターで取り組むプロジェクト数(+25件) ④フューチャーセンターのプロジェクトに参加する高校生・大学生の人数(+100人)		関連URL 交付金の具体的使途等について 効果の検証について

拐点当初

15

事業概要【自然豊かな県立公園拠点整備【県立赤城公園】】

拠点当初

申請者	群馬県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,078,645千円 (156,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	「自然」をハブにしたまちづくり拠点として、「赤城ランドステーション」、「大沼（おの）キャンプフィールド」を整備することで、地域観光資源の活用による魅力的な観光地域づくりを進め、観光産業の活性化により、しごとをつくる。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	現在あるビジターセンターを「赤城ランドステーション」へ更新し、公園利用者が必ず立ち寄るゲートウェイ的施設として生まれ変わらせ、様々な方々が集い交流する場を提供する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 128,000千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 10,000千円、機械設備工事費 18,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①赤城ランドステーションの利用者数（+15,000人） ②赤城山における消費額（+1.66億円） ③赤城山への路線バス利用者数（+1,500人） ④大沼キャンプフィールドの宿泊者数（+7,500人）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） 調整中 （効果検証） 調整中



事業概要【モノづくりの伝統技術とデジタル技術が織りなす、 イノベーション支援拠点整備事業～高付加価値製品開発と新規分野への参入～】

拠点当初

申請者	山梨県	初回採択回	令和4年度第2回募集
事業計画期間	R4-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	932,429千円 (606,379千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ(当初予算分) ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的(効果)	県内の機械電子産業及び繊維産業に対する製品開発への支援に加え、センター職員による技術支援や販路拡大への支援等一貫したトータルサポートを行うことで、モノづくりにおける製品の高付加価値化やブランド価値向上を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	・高い技術力を持つが資金力の弱い中小製造業のために、高水準の技術・開発力を支える先端機器を導入。 ・導入機器を適切に管理し、中小製造業のチャレンジングな製品・試作開発を支援するため、温度・湿度の管理機能等を備えた施設を整備。 ○施設整備等(設備整備・用地造成を除く)の内容 【建築物本体工事】建築工事費等 199,892千円 【建築物と不可分な設備工事】電気設備工事費 60,421千円、機械設備工事費 139,141千円 ○効果促進事業(ハード事業)の内容 【舗装工事・撤去工事】45,729千円 【イノベーション支援拠点機器整備事業】142,615千円 【既存棟電気工事】18,581千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①医療機器関連産業における新分野への参入件数(+30件) ②B to C向け繊維製品の平均売上比率(B to C製品売上額/売上総額)(1社当たり)(+20%) ③医療機器の製品開発に関連する支援件数(+114件) ④B to C向け繊維製品の開発に関連する支援件数(+85件)	関連URL	https://www.pref.yamanashi.jp/yitc/index.html



事業概要【製造業のスタートアップとイノベーションを促進する、
「企業に寄り添うパートナーシップ型工業技術センター」整備事業】

申請者	滋賀県	初回採択回	令和4年度第1回募集
事業計画期間	R4-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	2,043,257千円 (44,670千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	人口減少が進む県東北部地域で、研究開発型ベンチャーを次々と産み出し、既存企業の新たなチャレンジについても広く支援を行うために、ベンチャー等を創出するための環境と、高度な研究開発環境を提供するオープンイノベーションセンターを有する工業技術センターを整備して、地域産業の活性化を目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	既存の東北部工業技術センターの統合移転において、オープンラボ（研究シーズを事業へと繋げる場）を整備し、ベンチャー等を創出するための環境を整えるとともに、オープンサロン（製品を「売る」ための支援場）、サテライト室（立地的に不便な企業の経営支援強化）、工場棟（製品の試作・評価）の整備により、オープンイノベーションを加速を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】建築工事費 32,240千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 【認定調査費】認定調査費 12,430千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①滋賀県北部の製造品出荷額（+80億円） ②オープンイノベーションセンターを活用し、県内企業が県外の企業と商談を行った件数（+100件） ③東北部工業技術センターの技術相談対応件数（+1,000件） ④理系大学出身者の県内企業への就職者数（+120人）		関連URL http://www.pref.shiga.lg.jp/kensei/kenseiunei/kousou/300323.html

申請者	奈良県天川村		初回採択回	令和4年度第1回募集												
事業計画期間	R4-R6年度		期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	717,088千円（101,358千円）												
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）		事業分野	観光分野												
目的（効果）	洞川温泉ビジターセンターは、本村の観光拠点施設となることから、「世界遺産」、「国立公園」など歴史・文化・自然が融合した世界的に貴重な場所があることを広くPRし、世界遺産を活用した体験コンテンツにも力を入れ、インバウンド観光にも対応した複合型施設となる。さらには未利用間伐材を熱源とした薪ボイラーを導入することで地域経済の循環が発生し、脱炭素につながる取組にもつながっており、これらの取り組む事により、過疎・高齢化に伴う人口減少問題に対応した取組を行える持続可能な観光地となることを目指す。															
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	令和5年度に完成する洞川温泉ビジターセンターの敷地内駐車場の舗装整備や、当該施設のへの集客力を上げるため近接する遊歩道の整備を行う。また施設敷地内にある既存の洞川温泉センター解体工事を行い、駐車場に整備し、集客台数を向上させる。 ○効果促進事業（ハード事業） <table><tr><td>【委託料】</td><td>既存建物解体設計監理費</td><td>881千円</td></tr><tr><td>【委託料】</td><td>駐車場等整備工事監理費</td><td>1,763千円</td></tr><tr><td>【工事請負費】</td><td>既存建物解体工事費</td><td>26,928千円</td></tr><tr><td>【工事請負費】</td><td>駐車場等整備工事費</td><td>71,786千円</td></tr></table>		【委託料】	既存建物解体設計監理費	881千円	【委託料】	駐車場等整備工事監理費	1,763千円	【工事請負費】	既存建物解体工事費	26,928千円	【工事請負費】	駐車場等整備工事費	71,786千円		
【委託料】	既存建物解体設計監理費	881千円														
【委託料】	駐車場等整備工事監理費	1,763千円														
【工事請負費】	既存建物解体工事費	26,928千円														
【工事請負費】	駐車場等整備工事費	71,786千円														
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①観光宿泊者数（+45,000人） ②洞川地区1人当たりの観光消費額（+31,000円） ③地域内高齢者雇用数（+5人） ④山岳遭難における道迷いの減少（▲5人）		関連URL	https://www.vill.tenkawa.nara.jp/												

19



地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） —継続事業（R5開始）—

事業概要【一関市大東地域の農産物等の魅力を創造・発信する「道の駅」整備事業】

拠点当初

申請者	岩手県一関市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	718,322千円 (494,655千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	農林水産分野
目的 (効果)	人の流れが盛んな国道343号沿いに「道の駅」を整備し、地域で生産された農産物を含む地元の自慢の味を消費者に提供することにより、地域の魅力発信や消費拡大を促進するとともに、農業者、商工業者、地元高校や市などが連携して、新たな商品や特産品の開発に取り組み地元農産物の高付加価値化を推進する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	道の駅において、農産物の高付加価値化により生み出されたプライベートブランド商品の販売、地域食材を使った料理の提供、SNS等を活用した情報発信等を行うとともに、デジタルサイネージやPOSシステム等のデジタル技術を活用し、施設運営における生産性と売上の向上を図る。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 233,852千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 69,268千円 機械設備工事費 79,079千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【外構工事】 41,772千円 【施設設備工事】 23,650千円 【無停電化設備設置工事】 太陽光発電設備工事費 22,660千円 自家発電設備工事費 13,387千円 【建設工事監理】 3,987千円 ○効果促進事業 (ソフト事業) の内容 【POSシステム導入費用】 7,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①施設売上高 (+42,056千円) ②運営団体との契約者数 (+200人) ③開発商品数 (+25個) ④農業算出額 (+10,500千円)	関連URL	https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/7,89227,125,html



事業概要【地域資源を活かした農村価値向上と人材育成によるまちづくり事業】

拠点当初

※民間事業者の施設整備に対する間接補助

申請者	岩手県紫波町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R8年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	902,920千円（439,802千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	体験農園や園内通路、エリア内の修景機能を高める園庭（ノウルガーデン）の整備、町内の特産物等の利用したレストラン等やマーケット機能、温浴施設等の魅力向上施設の整備、定住促進住宅の整備により、若者にとって魅力あるまちづくりと移住・定住を実現するための施設として利活用を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	校舎を農業等の体験施設などを備えた複合施設として改修し、また校庭に魅力向上施設や体験農園等を備えた機能を整備し、地元の若者や町内外の希望者向けに農業体験等を実施する「地方創生アカデミー事業」を施設で行うことにより、産業振興とともに人材の育成、定住促進を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【魅力向上施設整備】 整備補助金 84,502千円 【定住促進住宅整備】 整備補助金 126,500千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【ノウルガーデン整備】 造成等工事負担金 227,700千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 【PR機運醸成事業】 使い方ワークショップ委託費 1,100千円	 NOLL ノウル 	
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①事業を通じた新規雇用者数（+8人） ②地区の転入出者数（+54人） ③ノウルガーデン利用者数（+7,100人） ④地元事業者の関連事業者数（+11人）	関連URL	調整中

22

申請者	山形県西川町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	774,354千円 (690,673千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	カヌーを柱とした町の魅力や強味など資源を再定義し、カヌースプリント競技の全国規模大会や合宿誘致をはじめ、観光誘客のためのレジャーカヌーやSUPなどウォーターアクティビティの充実(カヌービレッジ構想)や、テレワークやワーケーションが可能なコワーキングスペースの整備などにより、これまで取り込めなかった人々や民間企業を呼び込む取組を進め、関係人口・交流人口の拡大を図ることで人の循環をつくり、延いては移住・定住に結び付ける。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	町の自然環境(湖と山)を生かし、柱であるカヌーを競技とレジャー両面で行うことができ、テレワークやワーケーションもできる拠点整備。もともとの観光資源(日本百名山の月山や朝日連峰登山、山麓の温泉など)と絡めた誘客にも力を入れ、交流人口や関係人口拡大の加速化を目指す。 ■ R6(カヌーセンター本体工事・外構工事の一部) ※以下概要 ▼施設整備等 (施設整備・用地造成を除く) : 635,808千円 【建物本体工事・監理】489,051千円 建築工事473,352千円、工事監理15,699千円 【建築物と不可分な設備工事】146,685千円 【その他手数料】72千円 機械設備工事63,228千円、電気設備工事83,457千円 ▼効果促進事業 (ハード事業) : 54,065千円 外構、循環型浄化槽、光ケーブル延伸、Wi-Fi整備等 ▼効果促進事業 (ソフト事業) : 800千円		 
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①本施設の利用者数 (+75,000人) ②県外チームの合宿件数 (+18件) ③東北大会以上の大会開催数 (+6件) ④レジャーカヌーの観光客数 (+1,650人)		関連URL https://www.town.nishikawa.yamagata.jp/

事業概要【農業短期大学校施設統合整備計画】

拠点当初

申請者	福島県	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	3,000,000千円 (2,187,291千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	本県農業を担う多様な人材の確保と育成のため、県内外の新規就農希望者や農業を志す学生が就農に必要な知識や技術を習得できる施設を整備し、また若手や就農後間もない農業者、新技術の習得に意欲的な農業者などが、段階的且つ継続的に研修を受けられる体制を構築し、農業者が地域に根ざし安心して農業を営める環境づくりを目指すことで、本県の基幹産業である農業の一層の活性化と持続的発展を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	令和3年4月に策定した基本構想に基づき、老朽化により機能が停止している旧研修関連施設と学生寮を統合集約化し、学生及び研修生が滞在し利用する生活機能と、スマート農業対応の多目的教育・研修機能を有する新施設を一体的に整備する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】・建築工事費 1,427,574千円 【建築物と不可分な設備工事】計326,460千円 ・電気工事費 141,005千円 ・設備工事費 185,455千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 ・用地造成費 24,662千円 ・外構整備 406,622千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 ・研修施設関係什器類整備 1,973千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①学科卒業生及び長期就農研修生の就農した人数（+21名） ②スマート農業研修の参加人数（+80名） ③遠方（県外・浜通り・会津地方）からの入学者数及び長期就農研修者数（+10名） ④新規就農者の定着割合（独立・自営就農した者のうち、認定新規就農者の計画満了時の定着率）（+4.3%）	関連URL	（交付金の具体手使途・実施体制） https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11015b/ （効果検証） 調整中



申請者	茨城県笠間市	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	380,446千円 (228,268千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	地域の中心となる笠間芸術の森公園内の笠間工芸の丘を、既存の地域にはない観点である「食×芸術×体験」をテーマとした新たな拠点として再生し、来訪者の拡大と地域経済への好影響をもたらす観光都市のリブランディングを図る。		
整備内容・ 利活用方策	笠間産材を活用した食事とデザートを提供するカフェレストランを新設し、「笠間の食」を楽しむ拠点とすることや、本市の人間国宝である笠間焼作家松井康成の展示室のリニューアルに加えて、日本芸術院会員であり日本を代表する郷土の彫刻家である能島征二氏の作品展示室を新設し、笠間焼だけではなく芸術のまちとしてのランドマーク機能の向上につなげる。 ○施設整備等（飲食施設、作品展示施設、笠間焼販売施設）の内容 【建築物本体工事】建築工事費 102,428千円 【建築物と不可分な設備工事】電気設備工事費 63,710千円、 機械設備工事費 62,130千円		
KPI	①来場者数（+82,700人） ②観光客一人当たり平均消費額（+1.06千円） ③物販・企画展示・レストラン売上額（+71,329千円） ④県外からの来訪者率（+8.00%）	関連URL	笠間工芸の丘 https://www.kasama-crafthills.co.jp



申請者	千葉県南房総市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,008,562千円 (961,266千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	地域の農畜産物を原料とする総合加工施設を整備し、南房総市の特産品である「房州びわ」と「牛乳」を軸とした新たな6次産業化商品の開発等を行い、道の駅の事業と組み合わせることにより、既存ブランドの付加価値向上や、農家の所得向上を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本事業を活用して整備する総合加工施設は、「農産物の加工・商品開発拠点」、市内8か所の道の駅は、自ら農産物の生産も行う「農産物の販売拠点」として位置付け、地域産品の販路拡大を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】建築工事費 328,055千円 【建築物と不可分な設備工事】電気設備工事費 127,313千円、機械設備工事費 150,084千円、牛乳プラント工事 240,134千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【加工施設設備工事】113,700千円 ○効果促進事業（ソフト事業） 【生産管理システム整備費】1,980千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①総合加工施設の販売金額（+125,000千円） ②域内の農産物等を使用した加工品の新商品開発数（+20個） ③総合加工施設の農産品の取扱品目数（+12個） ④1経営体あたりの生産農業所得（+300千円）		関連URL 調整中

事業概要【「子育てするなら燕市で」

子どもたちの笑顔あふれる全天候型子ども遊戯施設整備事業】

拠点当初

申請者	新潟県燕市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,139,016千円 (967,416千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	市内・近隣市町村の子どもたちが体を使って思いっきり遊べる全天候型の大型遊戯施設を整備することにより、市民の子育て満足度を向上させ、子育て世代の転出抑制に繋げるとともに、進学や結婚を機に転出した若年層等のUターン移住の促進を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本事業は、子どもたちの心身の健やかな成長に資することを目的に、天候に左右されことなく体を使って思いっきり遊ぶことのできる全天候型遊戯施設を建設するものである。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 652,177千円 ・建築工事費 652,177千円 【建築物と不可分な設備工事】 275,337千円 ・電気設備工事 161,685千円 ・機械設備工事 113,652千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【外構整備工事】 駐車場整備工事 20,902千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 【混雑状況等配信システム整備事業】 16,000千円 ・混雑状況等配信システム設置工事 16,000千円 【GIS閲覧システム整備事業】 3,000千円 ・GIS閲覧システム設置工事 3,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①本市の子育て施策を利用して移住した子育て世代の人数（+76人） ②本市の子育て支援に対して満足と答えた人の割合（25～49歳）（+4.95%） ③施設の利用者数（+158,000人） ④燕市子育て支援アプリ登録者数（+1,920人）	関連URL	 ←わいわい広場 （6歳～12歳を対象としたエリア） クライミングやエアトランポリンなど、子どもがチャレンジしたくなる遊具で楽しめる。 https://www.city.tsubame.niigata.jp/soshiki/kodomoseisaku/1/zentenkou/index.html

事業概要【道の駅を起点とした地域経済創造コミュニティ拠点整備事業】

拠点当初

申請者	長野県佐久穂町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,016,967千円 (218,340千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	「道の駅」を整備し「直売所」を開設することで、農家が販路を拡大しながら安定した収益を得られる拠り所となり、併せて既存農家と新規就農者との交流の場や研修の機会を「道の駅」から発信することで、協力して町の農業を発展させ、地域経済の活性化を図っていく。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	「道の駅」が、独り立ちを目指す有機農業や果樹農家を志す就農者の受け皿となり、販路を開拓しながら安定した収益を得られ、就農者が安心して過ごせる下支えの場となる。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 161,191千円 【建築物と不可分な設備工事】 57,149千円 ・電気設備工事費 26,376千円 ・機械設備工事費 30,773千円 【合計】 218,340千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①直売所売上収入（+241,594千円） ②新規就農者数（+9人） ③年間来場者数（+5,174.5百人） ④新規出品者・出店者数（+320件）	関連URL	https://www.town.sakuho.nagano.jp



申請者	静岡県	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	2,177,596千円 (1,673,556千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	本県茶業の再生を図るChaOI（チャオイ）プロジェクトの拠点として、茶業研究センターを再整備し、国内随一の茶業研究プラットフォームを構築する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本県茶業の収益性を高め、茶産地の活性化につなげることを目標として、茶業の技術革新を進める拠点となる静岡県農林技術研究所茶業研究センターの施設及び設備を再整備する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】建築工事費 920,202千円、 工事監理費 20,293千円 【建築物と不可分な設備工事】電気設備工事費 231,374千円、 機械設備工事費 227,964千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 機器整備費 183,154千円、外構工事費 67,045千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 機器整備費 22,121千円、研究映像製作委託費 1,403千円	新研究棟の整備イメージ 	
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①茶産出額（+60億円） ②茶輸出額（+44億円） ③茶有機栽培面積（+349ha） ④ChaOIフォーラム会員数（+150会員）	関連URL	調整中

※PFI活用

申請者	愛知県南知多町	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,324,404千円 (709,727千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	「篠島」「日間賀島」へ渡る玄関口である師崎港観光センターを中核的な観光拠点として再整備し、立体駐車場による周辺の渋滞解消、観光施設内のフードコート及び物販施設での地場製品の提供、離島観光の促進などを通じて、地域活性化、観光交流人口の拡大を図る。		
整備内容・ 利活用方策	師崎港観光センター及び立体駐車場を整備し、フードコートや物販、駐車場横のスペースを活用したキッチンカーの出店や定期的なイベント開催により、当施設への訪問を目的とした観光客および利用客の増加を図る。さらにデジタルサイネージを置き、離島を始めとした町内観光・イベント情報を常に発信し、町内の他の観光施設にも波及させ、町内全域の観光客数の増加を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 師崎港観光センター及び立体駐車場建設工事に係る実施設計業務 12,409千円 師崎港観光センター建設工事、監理業務 131,379千円 立体駐車場建設工事 立体駐車場建築工事 565,939千円 仮設事務所等の設置工事 71,612千円		
KPI	①観光入込客数（篠島・日間賀島）の増加（+54,270人） ②宿泊者数（篠島・日間賀島）の増加（+10,000人） ③施設消費額の増加（+42,000千円） ④高速船及びカーフェリーの利用客数の増加（+135,662人）	関連URL	https://www.town.minamichita.lg.jp/kankosangyou/kankou/1004381/index.html



事業概要【道の駅あいの土山整備事業】

拠点当初

申請者	滋賀県甲賀市	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,499,387千円 (1,263,341千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	老朽化した既存建物を解体して拡張した隣接地に新たな道の駅あいの土山を建築し、土山茶の魅力を伝えるためのブランド「土山一晩ほうじ」をはじめとする本市で生産された農産物を集中的に取り扱うことにより、市内農産物の農業振興を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	道の駅において、地元産農産物を中心とした特産品等の商品開発を行うとともに、様々な体験プログラムやイベントを展開して集客を図る。また、デジタル技術を活用した周遊型観光の促進、防災機能の強化等にも取り組む。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】・建築工事費 747,769千円 【建築物と不可分な設備工事】・設備工事（電気・機械） 377,045千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【外構工事】 138,527千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①施設来訪者数（+81,278人） ②施設売上高・・・（+65,134,496円） ③市内新規就農者数（+20人） ④出荷者数（+90人）		関連URL https://www.city.koka.lg.jp/16565.htm

申請者	兵庫県南あわじ市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円 (225,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	道の駅うずしおを再整備するとともに、完成後にはデジタル技術等を活用し、本市及び周辺地域の魅力を来訪者に伝えることにより、当該施設を拠点に本市の観光地等へ、更には淡路島内、徳島県鳴門市への周遊につなげる。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本市の魅力を発信できる施設として、道の駅をリニューアルすることにより、集客増を図り、売上向上につなげる。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 220,000千円 ・建築工事費 170,222千円 ・電気設備工事 6,622千円 ・機械設備工事 43,158千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【デジタルサイネージ整備】 ・コンテンツ開発・設置委託料 5,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①域内の宿泊者数の増加に伴う消費額の増加（+8,024,400千円） ②道の駅うずしおへの来訪者数（+170千人） ③道の駅うずしお売上額（+505,002千円）		



関連URL

<https://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/soshiki/furusato/dainiki-sousei.html>

事業概要【木育推進型インクルーシブ拠点整備事業】

拠点当初

申請者	奈良県三郷町	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	422,900千円 (387,700千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分) ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	地方への人の流れ分野
目的 (効果)	FSS35キャンパス (奈良学園大学跡地) に木育をテーマとした交流体験型ミュージアムや児童書を置いたライブラリーカフェ、障がい者アート等の展示ギャラリーなど、子育て世代を中心とした全年齢が楽しめる施設の整備を行い、施設での高齢者、障がい者雇用を通じて多世代交流の場とし、交流人口の拡大を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	三郷町は、大学跡地を「FSS35キャンパス」と銘打って活用し、「生涯活躍のまち」の推進や将来像の実現を図っている。FSS35キャンパスの取組の一つとして、キャンパスの7号館の一部を「木育推進型インクルーシブ拠点」とした。 具体的には1階を無料で入れるライブラリーカフェとし、約2,000冊の児童書等を置き、カフェやWi-Fiも完備することから、地域住民の憩いの場になるとともに、子育て世帯の親にとっては、施設内で子どもが遊び、ライブラリーカフェで仕事やテレワークを行う等、働き方改革にも寄与する。 2階は、交流体験型ミュージアムとして、「木育」をテーマに木とふれあいながら歴史や文化、環境について楽しく学び、0歳から100歳までのすべての人が楽しめる施設とする。 ・木育推進型インクルーシブ拠点 (仮) 363,000千円 ・遊具・展示品等制作費 (ハード) 5,500千円 ・遊具・展示品等制作費 (ソフト) 19,200千円		 
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①交流人口 (町外からの来館者) (+100,500人) ②木育型インクルーシブ拠点への入館者 (町内) (+8,100人) ③転入者数 (+260人) ④障がい者雇用数 (+10人)		関連URL https://www.town.sango.nara.jp

事業概要【人が集う松江の新たな日常を生み出すプロジェクト「旧日銀松江匠工房整備事業」】 拠点当初

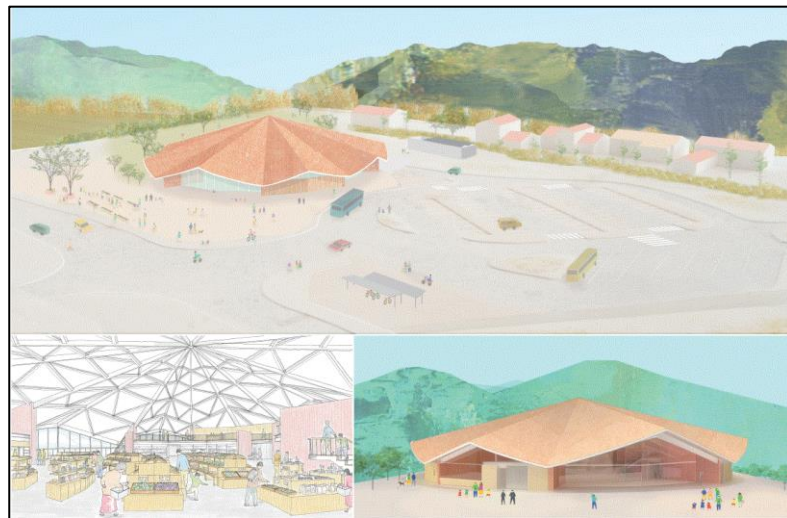
申請者	島根県松江市	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	614,583千円 (347,204千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分) ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	観光分野
目的 (効果)	「旧日銀松江匠工房」を地域製品の販売・開発、フードセンター、伝統工芸の体験、観光案内などを行う施設として再整備し、施設を核とした市内周遊促進及びインバウンド等の誘致、地域製品の磨き上げによる観光消費の拡大を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	「旧日銀松江匠工房」において、地域製品の販売・開発、10のテナントをもつフードセンター、伝統工芸の体験、観光案内などを行う施設として再整備し、市民にとっては日常的に訪れる憩いの場として、また観光客にとっても松江の豊かな日常を体感し、何度も訪れたい場所として観光需要の掘り起こしを図る。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 153,863千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 100,868千円、給排水衛生設備工事費 16,356千円、空気調和設備工事 21,827千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【建築工事費】 煙突撤去工事等 10,637千円、ウッドデッキ改修 20,292千円、サイン改修等 13,276千円 【電気設備工事費】 9,335千円 【給排水衛生設備工事費】 750千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額 (+24,790百万円) ②施設売上高 (+451,000千円) ③インバウンド観光宿泊者数 (+130千人) ④歩行者・自転車通行量 (+1,380人)	関連URL	(松江市ホームページ) https://www.city.matsue.lg.jp/sangyo_business/sangyoshinko/7/karakoro/index.html (カラコロ工房ホームページ) https://karakoro-kobo.com/



事業概要【複合拠点としての道の駅瑞穂再整備事業】

拠点当初

申請者	島根県邑南町	採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R6年度	交付対象事業費	1,128,332千円（916,166千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	現在の道の駅瑞穂を再整備し、「町内の地産地消」「地域資源（人・もの・こと）につなぐ交流拠点」として位置づけるとともに、学びと交流を行う場として、デジタル技術を活用した「WEB公営塾」等のD X活用による子どもの教育環境の確保や教育格差の解消、加えて職業体験・農業体験を提供できる機能を併設した複合施設としての道の駅施設を整備し、道の駅・産直市にとどまらない、総合的なまちの拠点機能を強化する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	再整備後の道の駅において、「おおなんアプリ」の展開による、生産者支援や情報発信による売り上げ及び集客力向上をはかるとともに、デジタル技術を活用した教育環境の整備などを行い、教育格差の解消等、子どもの居場所を併設した複合施設としての道の駅施設を目指す。 ○施設整備等の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 731,775千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 43,032千円、機械設備工事費 140,454千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 【デジタル端末・機器整備】 905千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①道の駅瑞穂年間来客数（累計＋7万人） ②産直市新規出荷者数（累計＋145人） ③WEB公営塾受講者数（累計＋400人） ④邑南町への観光入込客数（累計＋29万人）	関連URL	https://www.town.ohnan.lg.jp/www/index.html



事業概要【地域産業DX促進拠点施設整備事業】

拠点当初

申請者	山口県長門市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	831,296千円 (183,258千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的 (効果)	旧山口福祉専門学校を改修し、ITベンチャー企業を誘致できる施設を整備することにより、オープンイノベーションの創出や市内産業のデジタル化・DX化を促進して労働生産性の向上と新たな雇用創出に繋げ、持続可能な経済成長を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	都市部からITベンチャー企業を誘致し、誘致企業間や地域企業等との交流促進によるイノベーションの創出及び市内産業のDX化の促進等を行う I Tベンチャー企業集積拠点施設の整備を行う。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【実施設計】 20,150千円 【実施設計監修業務】 4,700千円 【建物本体工事】 148,664千円 【建築物と不可分な設備工事】 2,566千円 【工事監理業務委託料】 7,178千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①ITベンチャー企業誘致件数 (+28件) ②ビジネスマッチング件数 (+25件) ③イノベーション創出数 (+42件) ④ITベンチャー誘致企業雇用者数 (+55人)		関連URL https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/soshiki/3/44236.html

事業概要【うみがめ博物館「カレッタ」を拠点とした地域再生事業】

拠点当初

申請者	徳島県美波町	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	639,764千円（328,070千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	観光分野
目的（効果）	美波町の観光資源である「うみがめ博物館カレッタ」を美波町や周辺市町村、徳島県が掲げる「サステナブルツアー」の拠点として改築することにより、町全体の滞在時間と消費額の増加を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	博物館の全面リニューアルを行い、入館者数を5万人まで増やすことで町全体の来訪者数の増加を実現する。 【建築物本体工事】 建築工事費 216,437千円 【設計監理費】 設計監理費 14,164千円 【建築物と不可分な設備工事】 機械設備工事費 86,943千円 【設計監理費】 設計監理費 5,689千円 【効果促進事業の外構工事】 外構工事 4,540千円 【設計監理費】 設計監理費 297千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①サステナブルツーリズム等の参加者数（+50人） ②博物館の入館者数（+18,000人） ③町内宿泊者数（+6,000人） ④新規起業者数（+18人）	関連URL	調整中

事業概要【道の駅「かみみね 為朝市場（仮称）」地域振興施設整備事業】

拠点当初

申請者	佐賀県上峰町	初回採択回	令和5年度第2回募集
事業計画期間	R5-R6年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円(910,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	道の駅において地元農産物の生産者にとって安定的な販路を確保するとともに、集荷、加工、販売までを一貫して行うモデルケースの構築、消費者ニーズの把握により、農業所得の向上や担い手の育成・確保、地産地消を促進することで、地域経済の好循環と美しく活力ある魅力的な農村の実現に寄与する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	地元農産物・加工品の販売施設、加工施設、レストランなどの機能を持つ道の駅（地域振興施設）を整備し、農業経営の効率化と域内経済循環を促進する。 【建築物本体工事】 1,109,942千円 【建築物と不可分な設備工事】 539,400千円 【その他費用（管理費等）】 280,655千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①年間直接販売額（+284,227千円） ②特産品等加工施設で開発された商品数（+15個） ③認定農業者増加数（+3経営体） ④1経営体あたりの農業産出額（+9000千円）		関連URL https://www.town.kamimine.lg.jp/kiji003150/index.html

事業概要【南島原市原城跡世界遺産センター整備事業】

拠点当初

申請者	長崎県南島原市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,234,551千円 (437,789千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分) ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野	観光分野
目的 (効果)	世界遺産の構成資産である原城跡のガイダンス施設を整備し、世界遺産の知名度を活かして集客力を高め、市の特産品の販売所や観光案内などの機能も備えることで観光振興や物産振興を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	世界遺産センターにおいて、歴史的な資料の高精細デジタル展示や世界遺産現地の理解を促すためのデジタル展示を中心として、世界遺産の価値を発信する展示施設として活用し、市の特産品の物産販売所や市内外の他の観光資源の情報も発信する観光案内機能なども備えることで、集客を図り、観光振興につなげる。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築物本体工事】建築工事費318,180千円、施工管理費2,056千円 【建築物と不可分な設備工事】展示工事52,800千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【敷地造成工事、外構工事、展示設備工事】敷地造成費38,353千円、展示設備工事費13,200千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【展示工事 (ソフト分)】展示工事費13,200千円	 世界遺産の隣接地としてふさわしい景観となるよう配慮しながら設計を行った。	
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①世界遺産センターの売上高 (+215,768千円) ②観光客増加に伴う経済波及効果 (+1,545,947千円) ③世界遺産センターにおける新規雇用者数 (+4人) ④史跡原城跡の見学者数 (+82,300人)	関連URL	https://www.city.minamishimabara.lg.jp/kiji0031721/index.html

事業概要【荒尾市ウェルネス拠点施設を中心とした地域経済活性化プロジェクト】

拠点当初

※PFI活用

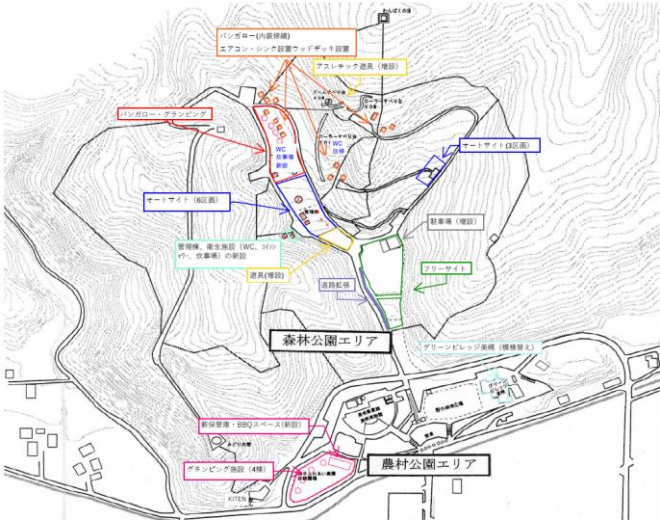
申請者	熊本県荒尾市	初回採択回	令和5年度第1回募集
事業計画期間	R5-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	653,351千円 (291,937千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分) ※R6年度はR5年度補正予算により早期執行	事業分野 (詳細)	農林水産分野
目的 (効果)	荒尾競馬場跡地に、多くの人やモノを呼び込み地域に活気をもたらす拠点として、物販や飲食における地場製品の販売等を通じた生産者等の所得向上、及び地産地消の促進による地域内経済の循環を推進する。また、複合施設として整備する、保健・福祉・子育て支援施設と連携した健康増進や子育て支援、高規格道路の発着点という立地を活用した広域防災拠点機能、地区内に立地する周辺施設との連携等、新たな価値を創造する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	道の駅において、本市の優れた地域資源を来訪者に購入してもらい、生産者の所得向上を図ることで、働き甲斐が見出され、生産意欲の向上による経営耕地面積の拡大や今後も働きたいと考える高齢者を増加させるとともに若者を中心とした新たな担い手の発掘と育成につなげる。また、さらなる所得向上や支出の抑制につなげるため、スマート農水産業の推進や生産者同士の情報交換の場を設け、生産効率の向上や省力化のための取組を促す。 【設計業務】 実施設計業務委託 13,712千円 【建築物本体工事】 建築工事費 194,758千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気・機械設備工事 83,467千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①物販施設における年間売上(+583,000千円) ②物販施設におけるレジ通過者数 (+458,000人) ③物販施設への出荷者数 (実人数) (+200人) ④当該施設の整備を機に新規に就農漁業や起業をする者の数 (+11人)		関連URL https://www.city.arao.lg.jp/shisei/shisaku/sogo-keikaku/page4791.html

地方創生拠点整備タイプ（当初予算分） —新規事業（R6開始）—

事業概要【美幌みどりの村再整備による滞在型観光推進事業】

拠点当初

申請者	北海道美幌町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	997,953千円 (52,239千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	本町における滞在型観光の拠点として、「美幌みどりの村」エリア一帯を再整備してエリアの価値向上に取り組み、地域資源を活用した新たな客層誘致を行うとともに、ワーケーションなど中長期的に滞在できる環境整備等の取り組みにより、観光振興の強化による地域経済の好循環や地域産業の活性化へ繋げ、更なる観光誘客と交流人口、関係人口の増加を図る。		
整備内容・ 利活用方策	新たな観光ニーズに合致した小規模グループ／家族層、また都市部からのワーケーション利用客をターゲットに美幌みどりの村一帯を滞在型観光拠点として以下の内容を整備し、地域における観光消費額の向上を図る。 オンラインツールを用いた予約システムにより混雑の緩和を図り、顧客の満足度向上させるとともに、オンラインチャットツールの導入により顧客のニーズに素早く対応する。 ・グランピングエリア整備 ・キャンプ場の再整備（オートサイトエリア整備、バンガロー改修等） ・グリーンビレッジ美幌の模様替え なお、令和6年度は以下の内容を実施する。 ○施設整備等の内容（設備整備・用地造成を除く） 【建築本體工事にに向けた各種設計】35,750千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【解体実施設計】8,360千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 【基本計画策定】8,129千円		
KPI	①地域における観光消費額（+102,883千円） ②観光入込客数（+23,317人） ③美幌みどりの村一帯の宿泊者数（+4,007人） ④美幌みどりの村でのワーケーション利用件数（+12件）		
		関連URL	http://www.town.bihoro.hokkaido.jp



事業概要【恐竜化石「カムイサウルス・ジャポニクス（むかわ竜）」を核とした持続可能な地域づくり事業】

拠点当初

申請者	北海道むかわ町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,210,021千円 (254,546千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	著しい過疎化や商業の衰退といった地域課題の解決と博物館のリニューアルによる人流の活性化を目指し、市街地を対象としたエリア再編を行い、過疎化が進む市街地の賑わいを取り戻し、住み続けられる持続可能なまちづくりにつなげていく。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	博物館は学術・教育的役割と観光的役割を併せ持つことから、展示物やその内容については幅広い層を対象とした工夫が必要となる。そのため、施設整備に際しては、博物館としての学術性を担保しつつ、一般来館者が理解と関心を深めるためにデジタル要素の活用も必要である。何度も来たくなる博物館づくりが、持続可能な施設運営の核となることから、その魅力化のためにデジタル技術の活用を行う。 具体的には、カムイサウルスやティラノサウルス等の全身復元骨格レプリカの3Dデータ化により、博物館内でタブレット端末を用いたデータの拡大・縮小・回転を行い、様々な角度から恐竜の観察を可能にし、化石に対する理解の深化や博物館のコンテンツの魅力化を図る。また、3Dデータをインターネット上で公開し、世界中の化石ファンとのバーチャルツアーを可能とする。 ○施設整備等の内容（設備整備・用地造成を除く） 【建築本体工事】 244,353千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【外構工事】 10,193千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+65,517千円） ②年間来館者数（+69,256人） ③町内観光入込客数（+85,156人） ④恐竜イベント等の実施回数（+5回）	関連URL	http://www.town.mukawa.lg.jp



事業概要【食と健康のまちづくり拠点施設整備事業】

拠点当初

※民間事業者の施設整備に対する間接補助

申請者	青森県五戸町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	739,472千円 (27,099千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	農林水産分野
目的 (効果)	県道20号線沿いに産直、物販、飲食等の機能を持った拠点施設を整備し、農産品販売を通じて生産者と消費者を結び付け、農業所得の向上とやりがいの提供及び後継者の育成。同時に他産業（診療所）と結びつき、食と健康の新たな地域産業を育む。人口減少への対策として観光客や買い物客を誘致し、交流促進を担い、地域経済との連携を強化し、地域活性化と雇用創出を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	食と健康の拠点施設において、地元農家等や指定管理者及び関係団体と連携し馬肉・牛肉・鶏肉の「三大肉」を活かしご当地メニューやイベントを通じて「希少性の高さ」を情報発信したり、体験型コンテンツを導入するとともに観光庁監修のご当地なびアプリやIoTふるさと納税自販機等を導入するなど、デジタル技術活用により売上向上を図る。 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【産地直送施設造成工事】用地造成費1期 27,099千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における農林水産出荷額 (+196,390千円) ②拠点施設における農林水産出荷額 (+192,190千円) ③管理運営団体との契約者数 (+200人) ④新規就農者の増加 (+12人)	関連URL	https://www.town.gonohe.aomori.jp

事業概要【大更駅前賑わい創出拠点整備事業】

拠点当初

※民間事業者の施設整備に対する間接補助

申請者	岩手県八幡平市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円 (250,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	地方への人の流れ分野
目的 (効果)	大更駅前にシェアオフィス、コワーキングスペース・一時預かり施設・子育て支援等の機能を持った複合施設を整備。子育て世代の多様な働き方に対応するとともに、交流の場を整備することで、移住・定住の促進を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	子育て支援施設・屋根付き公園・移住定住センター・イベントスペース・コワーキングスペース・チャレンジショップ・観光案内などの機能を有する複合施設を整備し、施設内にコワーキングスペースを設けることにより、事務所を持たない事業者の活動を支援する。 施設内にはデジタルサイネージによる案内板を設け、公共交通機関の時刻表の掲示、施設の予約状況、観光案内を実施する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】487,619千円 （うち、交付対象事業経費 250,000千円/内訳:八幡平市 250,000千円） ・建築工事費 487,619千円（うち、交付対象事業経費 250,000千円）		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域へのUIターン数（+125人） ②施設の利用者数（+30,000人） ③JR花輪線大更駅1日当たり乗車人員（+170人） ④20-40代のうち子育てしやすいと回答した割合（+17%）	関連URL	調整中

事業概要【しろいしの魅力発信・地域と文化の交流による
新たな価値を創造する地域防災拠点 道の駅しろいし整備事業】

拠点当初

※PFI活用

申請者	宮城県白石市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	622,343千円 (45,907千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	多くの観光客が集中する主要地点が近隣市町村に存在するものの、本市への周遊が限定的になっていることから、スマートインターチェンジの事業化を契機に南東北の「ヒト」「モノ」「カネ」が行き交う交流拠点として、新たに産直、物販、レストラン等の機能をもった「道の駅」を整備し、本施設を出発点とした新たな周遊ルートの形成や本市の観光資源の磨き上げと積極的な情報発信等を進めることにより、観光振興や産業振興、地元雇用の創出、地域活性化を図る。		
整備内容・ 利活用方策	観光地としての魅力向上と周遊性の向上を図るため、ふくしま田園中枢都市圏等と連携し、道の駅や観光スポットを巡るデジタルスタンプラリーの開催により、交流人口や関係人口の拡大と地域経済の活性化を図る。 また、POSシステムを導入し、レジデータ分析による顧客ニーズの把握や商品の仕入れ、在庫管理等に活用することで、観光客の利便性向上や施設運営の省力化に取り組む。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【実施設計】 実施設計費 38,504千円 【実施設計モニタリング】 モニタリング費 7,403千円		
KPI	①観光消費額 (+ 3,184百万円) ②道の駅の年間利用者数 (+ 1,400,000人) ③道の駅の年間売上高 (+ 784百万円) ④観光客入込数 (+ 1,744,000人)	関連URL	(交付金の具体的使途・実施体制) 調整中 (効果検証) https://www.city.shiroishi.miyagi.jp/soshiki/6/25289.html

※経費内訳はR6年度事業費



事業概要【美郷町子ども子育て支援拠点施設整備事業】

拠点当初

申請者	秋田県美郷町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	754,535千円 (110,237千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	子どもが安全で安心して1年を通して天候に左右されず遊べる場、親子のふれあいの場や子育て相談の場として「美郷町子ども子育て支援拠点施設」を整備することにより、子どもの遊び場や子育て世代が安心して楽しく子育てができる環境の充実を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	乳幼児から小学生までを対象とした遊戯エリア、子育て相談室、子育て情報コーナーやデジタル遊具などを設置し、子どもの遊び場や子育て世代が安心して楽しく子育てができる環境の充実を図る。 また、マイナンバーカードを活用した入退館システムの導入により収集可能である入館者の属性データを用い、施設の魅力向上につながるサービスの創出を行う。 ○施設整備等の内容 (設備整備・用地造成を除く) 【実施設計】 施設建築実施設計費 35,603千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【駐車場整備工事】 駐車場整備工事実施設計費 879千円 駐車場整備工事費 19,338千円 【既存施設除却解体工事】 既存施設解体工事費 52,030千円 工事監理費 2,387千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口・世帯数 (+33世帯) ②本施設利用者数 (+45,000人) ③本施設利用に満足と答えた人の割合 (+100%) ④子育て支援アプリの登録者数 (+310人)	関連URL	https://www.town.misato.akita.jp/seisaku_keikaku/3918



事業概要【観光交流拠点施設「朝日自然観コテージ村」再整備による高付加価値化の創出と
持続可能な滞在型観光推進事業】

拠点当初

申請者	山形県朝日町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	578,811千円 (140,221千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	朝日自然観コテージ村を観光交流の拠点施設と位置づけ、多様化する観光ニーズへの対応と持続が可能な魅力ある施設に再整備し機能を強化していく。コテージ村エリア全体の高付加価値化と利便性の向上を図るとともに、町有観光交流3施設の連携をもとに町全体の活性化と交流人口の増加に取り組む。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	朝日自然観敷地内及びその周辺において、食や自然を活かしたソフトプログラムを実施し、自然を満喫できる施設としてブランドイメージを構築し観光客の利用促進を図る。 また、施設に多言語対応のタブレット型オーダー端末を配備し、インバウンド客の利便性向上や、従業員の業務効率化を図る。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築物本体工事】 コテージSタイプ1棟模様替え工事 22,765千円 コテージAタイプ9棟実施設計 24,680千円 管理棟1棟新築工事 65,015千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【外構工事】 測量業務2,970千円、実施設計5,674千円 構内道路工事11,172千円、工事監理 945千円 既存コテージ解体工事7棟7,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額 (+71,000千円) ②観光交流3施設利用者数 (+65,000人) ③朝日自然観コテージの稼働率 (+16.0%) ④観光協会が実施するツアーの数 (+9回)	関連URL	https://www.town.asahi.yamagata.jp



申請者	茨城県大子町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,164,976千円 (30,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ(当初予算分)	事業分野	観光分野
目的(効果)	課題として、人口減少(2050年に▲60%)及び観光客減少により、消費販売額等が▲50%以上(20年前比)となっている。対策として、防災道の駅の機能拡張及び受入体制の強化により、地域特性を活かした賑わいの創出を図る。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	防災道の駅の拡張として観光交流施設を建築し、アウトドアブランドとの連携による地域特性(県内最高峰の山、一級河川、サイクルツーリズム等)を活かしたアウトドアアクティビティの創出・促進や、地域資源・特産品の販路拡大を図る。 また、チャットボット等で一部の行政サービスを提供すること、町内で運行しているAIタクシーの発着点に指定することなどにより、来客の利便性向上を図る。 ○効果促進事業(ハード事業)の内容 用地造成工事 30,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額(+351,680千円) ②主要な観光スポットにおける観光客数(+96,396人) ③主要な観光スポットにおける周遊客数(+76,571人) ④道の駅(既存含む)における新規雇用者数(+14人)		関連URL 調整中

※民間事業者の施設整備に対する間接補助

申請者	茨城県境町	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	400,000千円（7,900千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	町内に不足していた宿泊施設を充実させるため、公募選定された民間の宿泊事業者と連携し、現在町にあるすべての宿泊施設と同等の宿泊室数を有する宿泊施設を整備し、本件施設を中心とした「境宿復興プラン」を構築実施することで、地域経済の活性化や移住定住の促進などにつながる。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	民間の宿泊事業者と連携し、宿泊施設を整備することで、町への来訪者の滞在時間を増加させ、地域経済の活性化を図る。 また、民間の宿泊事業者による顧客管理システム及びスマートチェックイン・アウトシステムの導入やこれまで町が取り組んできたドローン・陸送を組み合わせた「新スマート物流」を活用した飲食物のケータリングサービスの提供など、デジタル技術を活用することで施設の利便性向上や業務の省力化を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【設計管理費】 7,900千円		 新規宿泊施設の整備及び「境宿復興プラン」の構築実施による地域活性化（イメージ）
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①地域における観光消費額（+756,525千円） ②本件施設での宿泊客数（+50,435人） ③本件施設を活用した「お試し宿泊」者数（+1,200人） ④本件施設活用による雇用増加数（+14人）		関連URL https://www.town.ibaraki-sakai.lg.jp/page/page000799.html

事業概要【滞在型宿泊施設整備事業（国民宿舎サンレイク草木のリニューアル工事）】

拠点当初

申請者	群馬県みどり市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円 (700,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	建設から40年以上が経ち老朽化による維持経費負担増に加えて、新型コロナを景気とする観光ニーズの変化に対応できない施設構造などの問題から利用者が減少している「国民宿舎サンレイク草木」をリニューアルすることで、観光誘客を推進し、交流人口や関係人口を創出するとともに周辺アクティビティや施設、小売店への経済的な波及効果を図り、エリアとしての魅力向上と地域の活性化を目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	官民連携型の観光拠点を整備することにより、新たな滞在型の観光マーケットを創出することに加えて、拠点をベースとした体験型コンテンツの充実を図ることなどにより、観光消費の促進を図るとともに、本市東町地域の新しいブランディングの目玉として発信することで観光客の集客を目指す。 また、デジタルコンシェルジュの導入や、スマートチェックイン・アウトなどデジタル技術の導入により、利用者の利便性向上や維持管理費の省力化を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 建築工事費等 600,000千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 解体工事・Wi-fi整備工事100,000千円		イメージ図（鳥瞰パース） 
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①市内観光消費額（+268,000,000円） ②施設利用者数（+25,000人） ③施設運営収支（+17,845,000円） ④施設を利用した、市民協働によるイベント及び周辺事業者との連携イベント（プラン造成含む）の開催（+40回）		関連URL https://www.city.midori.gunma.jp/shisei/1001659/1001840/1003004.html

事業概要【SAITAMAロボティクスセンター（仮称）整備事業】

拠点当初

申請者	埼玉県	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	3,000,000千円 (22,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	県内に中小企業等のロボット開発を支援するための施設を整備し、先端産業を集積するとともに県内中小企業のロボット産業への参入を促すことにより、新たな雇用と成長をもたらすことで、県内産業の振興と経済的発展を目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	中小企業等によるロボット・ドローンの研究開発や実証実験の場を提供するため、研究開発拠点としてのレンタルラボ及び実証実験を行うための屋内フィールドや屋外のドローン飛行場・模擬市街地フィールド等の実証フィールド並びにオープンイノベーションによる研究開発のためのコワーキングスペースや技術相談室等を一体的に整備する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 22,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における新規雇用者数（+600人） ②ロボット関連企業や大学等によるオープンイノベーションによるロボット開発プロジェクトの創出数（+20件） ③「埼玉県ロボティクスネットワーク」会員数（+310者） ④SAITAMAロボティクスセンター（仮称）レンタルラボ入居企業数（+20社）	関連URL	https://www.pref.saitama.lg.jp/a0102/documents/yusikisyakaigi.html



申請者	千葉県市原市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,267,502千円 (51,145千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	チバニアンのガイダンス施設を整備することにより、チバニアンの価値や魅力を活かし、本市の新たな観光資源のひとつとする。併せて、チバニアン周辺の市南部地域に点在する「高滝湖」「養老溪谷」「小湊鉄道」「ゴルフ場」といった魅力的な観光資源との連携強化により相乗効果を図り、本市の目標である交流人口500万人を目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	地層を一見しただけでは分かりづらいチバニアンの価値や魅力を、分かりやすく伝えるため、現地に新たにガイダンス施設を整備し、本市の新たな観光資源として多くの人々が集う交流・賑わいの場とする。 さらに、チバニアン周辺の市南部地域に点在する「高滝湖」「養老溪谷」「小湊鉄道」「ゴルフ場」といった魅力的な観光資源との連携強化により相乗効果を図り、これら観光資源間の回遊性を向上させる仕組みを構築する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建物実施設計業務委託】 51,145千円	【ガイダンス施設イメージパース】  提供：陳研吉建築都市設計事務所	
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の観光消費額（+305,000千円） ②市内観光入込客数（+1,500千人） ③チバニアン年間来場者数（+27千人） ④本市リピーター率(+5%)	関連URL	https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=61004714de0c5f03dc0b5314

事業概要【世界に誇る博物館プラネタリウムを活用した地域活性化事業】

拠点当初

申請者	神奈川県相模原市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	485,600千円（199,100千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	博物館プラネタリウムのリニューアルによって子どもたちの宇宙への憧れや関心を高めるとともに、地域の活力を活かした魅力発信事業をプラネタリウムにおいて行うことで、シビックプライドの醸成や地域活性化につなげる。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	全天周デジタル式映像投影機により、8Kの高精細映像とともに、3次元デジタルデータによる宇宙空間のシームレスな描画が可能となり、効果的な学習コンテンツや、臨場感ある感動的な映像体験を多くの方々に提供することができるようになる。また、デジタル式映像投影機は、様々な入力ソースを自在に投影することが可能であり、観光イベントやシティプロモーションなどに活用することができる。 ○施設整備等（設備整備・用地造成）の主な内容 【ハイブリッド・プラネタリウムシステムの整備】 32,573千円 【プラネタリウムシステム付帯設備の整備】 5,913千円 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 5,061千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 1,870千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【既存機器等の撤去】 6,373千円 ○効果促進事業（ソフト事業）の内容 【プラネタリウム装填風景画像の制作】 6,897千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①プラネタリウムの観覧者数（1日あたり）（+87人） ②魅力度（相模原市が魅力的と思う人の割合）（+3.5%） ③地域の活動への参加率（+24%） ④人口増加率（+0.36%）	関連URL	https://sagamiharacitymuseum.jp/

事業概要【新川こども施設整備・運営事業】

拠点当初

※PFI活用

申請者	富山県	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R9年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	2,831,309千円 (37,470千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	こどもたちが天候に関わらず思いきり遊ぶことのできる屋内遊戯施設「新川こども施設」を整備し、こどもたちの非認知能力や運動能力の向上を図るとともに、子育て世代の満足度を高め、こどもたちの郷土への誇りや愛着を醸成することで少子化の抑制と県内への定住促進につなげる。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	整備にあたっては、民間の創意工夫を最大限引き出すため、施設の設計・施工から維持管理・運営までを事業者が一体的に実施するPFI-BTO方式を導入して進めることとしている。 本事業は、ハード面ではこどもたちが天候に関わらずダイナミックに遊ぶことのできる大型遊具や、家ではできない体験を提供するデジタルコンテンツを使った遊びを提供するほか、ソフト面では地域の企業等と連携した体験プログラムを開催するなど、ハード・ソフト両面で本県の子育て環境の魅力向上に資するオリジナリティにあふれた施設を整備する事業である。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築基本設計】 建築基本設計 31,200千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【遊具設計業務】 遊具基本設計 6,270千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①本施設の周辺市町村の人口 (▲13,635人) ②本施設の周辺市町村の出生数 (0人) ③本施設の利用者数 (+230,000人) ④本施設でイベント・プログラムの開催に協力いただける地元企業や地域団体等の数 (+48団体)	関連URL	(交付金の具体的使途・実施体制) https://www.pref.toyama.jp/140401/kyurashi/kyouiku/kosodate/shienjigyou/niikawakodomo/20220311.html (効果検証) https://www.pref.toyama.jp/140401/kensei/kenseiunei/keikaku/miraisouzou/kj00015433/index.html



事業概要【富山市総合体育館Rコンセッション事業】

拠点当初

※PFI活用

申請者	富山県富山市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	2,000,000千円（17,300千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	既存施設の魅力を最大限生かすため、プロバスケットボールリーグ「Bリーグ・プレミア」基準に対応したアリーナ改修をPFI事業の「R方式」、施設運営を「コンセッション方式」とする「Rコンセッション事業」とし、民間活力やノウハウを活用した自由度の高い事業を展開することで、プロバスケットボールチームとの連携による興行をはじめ、コンサート等の多様で良質な興行を誘致し、富山駅北地区全体の回遊性の向上や、関係人口、交流人口の拡大を図る。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	市総合体育館における、Bプレミアで求められている基準の充足や施設の魅力向上を図るための施設改修等をPFI事業の「R方式」、施設運営を「コンセッション方式」とする「Rコンセッション事業」とし、民間活力やノウハウを活用した自由度の高い事業を展開し多様な収益源を確保することで「稼ぐ力」を高めるとともに、デジタル技術を活用した効率的な維持管理によって施設の持続可能性を高める。 具体的には、AIロボット掃除機に加え、ICTを活用した施設管理システムを導入し、スケジュールや設備台帳、メンテナンス計画、電力料等の情報をデジタルで一元管理することで、点検や修繕に係る時間とコストの削減を図るだけでなく、これまで紙媒体等で提出していた施設管理情報も市側でリアルタイムで確認可能となり、事業者と市の双方にとって効率的な維持管理が可能となる。 また、Bリーグと連携し、ARやマルチアングル等を活用した臨場感溢れる映像コンテンツの発信に取り組む。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】基本設計費 17,300千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①富山市の世帯数（+8,750世帯） ②Bリーグ興行における1試合平均入場者数（+420人） ③市総合体育館及び市3×3バスケットボールコートにおける興行開催回数（Bリーグ公式戦除く）（+5回） ④富山駅北側の平均歩行者通行量（+650人）	関連URL	https://www.city.toyama.lg.jp/shi-sei/seisaku/1010738/1011468/1002487.html



事業概要【射水市道の駅新湊等整備運営事業】

拠点当初

申請者	富山県射水市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	558,200千円 (50,820千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	新湊漁港で水揚げされる海産物の魅力を効果的に情報発信できず、観光消費に繋がっていないなどの課題に対応するため、躯体の劣化が進んでいた道の駅新湊の大規模改修を行うとともに、施設の設置意義が低下していた新湊農村環境改善センターを道の駅新湊別館としてリニューアルし、「射水ブランド」の高付加価値化や観光誘客等を推進する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	リニューアル後の道の駅では、農協や漁協などと連携し、本市の魅力ある食材を活用した独自商品の開発や地元産品の販売促進、地域資源のブランディングに取り組む。販売促進に当たっては、現地決済型ふるさと納税システムの構築やECサイトの設置、キャッシュレス決済やITを活用した多言語対応といった、デジタル技術を活用した手法の導入を進めていく。また、タッチパネル型のデジタルサイネージの導入により、観光地情報の多言語化、選択されたトピックスを参考に推奨観光モデルコース等を表示するほか、スマートフォンのGPSのビッグデータを活用し、今まで計測できなかった層も含めた精緻な分析をすることで、観光地への観光客誘導にも取り組み、経済波及効果を地域へ波及させ、市内全体での「稼げる観光」の実現を目指す。 ○道の駅新湊及び旧新湊農村環境改善センター大規模改修 【建築物本体工事】 建築工事費 50,000千円、工事監理委託費820千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①地域における観光消費額 (+ 256,410千円) ②道の駅新湊売上総額 (+ 154,269千円) ③スマートフォンGPSデータに基づく道の駅周辺エリア来訪者数 (+ 127,625人) ④6次産業化推進事業件数 (累計) (+ 4件)	関連URL	(交付金の具体的使途・実施体制) https://www.city.imizu.toyama.jp/guide/svGuideDtl.aspx?servno=17455 (効果検証) https://www.city.imizu.toyama.jp/guide/svGuideDtl.aspx?servno=47146557



申請者	富山県入善町	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,377,500千円 (111,690千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的（効果）	町の地域資源である海洋深層水の取水量を増やすため、深層水取水施設や設備を整備し、企業による積極的な事業展開を促進することで、水産業をはじめとした関連産業の雇用の増加を実現し、地域経済の活性化を図る。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	海洋深層水や地下水を活用している民間企業が多く立地し、積極的な事業展開や事業化に向けた取り組みを進めているが、現在の海洋深層水の取水量では不足している。取水量を増やすため、新たに取水施設や取水管を含めた設備などを整備し、民間企業へ分水することで、町の水産業をはじめ観光業、商業の振興、雇用の増を目指す。 海洋深層水の活用にあたっては、取水量や水温、塩分濃度の制御、餌の量など魚の生育管理、魚の成長曲線に応じた調整にデジタル技術を活用することで、蓄積データに基づいた細やかな対応が可能となり、生産効率向上、人員省力化にも資する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費(掘削工含む) 83,700千円 【建築物と不可分な設備工事】 ポンプ設備工事費 12,600千円 ○施設整備等（設備整備・用地造成）の内容 深層水取水設備(取水管)整備工事費 管材料・製作費 0千円、推進工事 15,390千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①地域における新規雇用者数（+60人） ②海洋深層水を活用する企業の設備投資額（+130億円） ③海洋深層水を活用する企業の年間売上高（+28億円） ④町内観光入込数（+120,000人）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制）調整中 （効果検証） https://www.town.nyuzen.toyama.jp/gyosei/chosei/shisaku_keikaku/2592.html



事業概要【屋内型子どもの遊び場整備事業】

拠点当初

申請者	福井県若狭町	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	275,000千円 (27,437千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	子どもたちが天候に関わらず楽しく遊び、子育て世代が交流できる場を町内に提供し、子どもの健全な育成及び安心して子育てができる環境の充実を図るため、屋内型子どもの遊び場を整備することで催事や定期的開催している教室・講座等の参加者が増え、複合施設パレア若狭全体の魅力が向上し、定住・移住人口の増加につながり、人口減少の大きな原因となっている社会減を抑制していく。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	複合施設パレア若狭キッズルームを増改築し、外の芝生エリアとキッズルームを自由に行き来できる一体型の遊び場を整備。 利用者の安全性を確保するために設置する防犯カメラで、滞在者の性別、滞在時間、動線の確認・分析も行い、ターゲットを絞った施設のイベントの企画と周知の実施、人気のある遊具等を明らかにし、繰り返し来場してもらえるような施設運営につなげる。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 16,909千円 【建築物と不可分な設備工事】 2,791千円 ・電気設備工事 791千円 ・給排水衛生設備工事 2,000千円 【共通仮設費・現場管理費・一般管理費】 5,243千円 【消費税】 2,494千円 【合計金額】 27,437千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①地域の人口・世帯数（転入者数）の増加（+50人） ②屋内型子どもの遊び場の利用者数（+11,400人） ③子育て支援アプリ登録者数（+30人） ④町の子育て環境や支援への満足度について、満足と答えた人の割合（+22%）	関連URL	https://www.town.fukui-wakasa.lg.jp/index.html



申請者	愛知県	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	3,262,031千円（52,045千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	農林水産分野
目的（効果）	狩猟の担い手不足・高齢化の課題を解決するため、愛知県総合射撃場の既存機能を活かしつつ、新たな機能を整備することにより、狩猟の担い手の確保及び人材育成を図り、中山間地域の野生鳥獣による農作物の被害を減少させ持続可能な農業を目指す。		
整備内容・ 利活用方策	愛知県総合射撃場にイベント・研修会も行える多目的ホール、実際の狩猟さながらの臨場感を体験できる射撃シミュレーターやVR機器、ジビエ加工品を利用した食事やお土産の購入ができるカフェや農産物販売所といった機能を新たに付加することで、多くの方々に立ち寄っていただき、気軽に射撃に触れる機会を創出することで、狩猟の担い手の新規獲得・育成につなげる。 さらに、射撃利用者と一般利用者の動線を分離するためのセキュリティフェンスを設置し、マイナンバーカードを活用して射撃場区域への入退場の管理をする。また、マイナンバーカードの情報を活用し、イベント・研修会等のお知らせなどを行う。 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【管理棟取壊し費】 49,933千円 【管理棟取壊し工事監理費】 2,112千円		
KPI	①地域における農林水産出荷額（農業）（+186億円） ②狩猟免許所持者数（+150人） ③鳥獣被害対策実施隊等の捕獲リーダー数（+9人） ④総合射撃場利用料金収入（+11,860千円）	関連URL	https://aispo-do.jp/



事業概要【多目的屋内施設を核とした笑顔と活力に満ちたまちのにぎわい創出プロジェクト】

拠点当初

※PFI活用

申請者	愛知県豊橋市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R9年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	2,000,000千円（0千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	市民が気軽にスポーツに親しみ自発的な健康づくりを促進するとともに、プロスポーツやコンサートなど人々を惹きつける魅力的なコンテンツを発信し、地域内外から多くの人を呼び込み、その集客による経済効果を飲食、宿泊、観光など周辺産業や中心市街地に波及させることで、まちなかのにぎわい創出を図る。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本事業では、豊橋公園東側エリア内に多目的屋内施設の建設及び周辺公園施設の再整備を実施する。多目的屋内施設は、プロスポーツやコンサート、物産展などを開催できる5,000人以上を収容するメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、武道場や弓道場などを完備し、多様なスポーツ利用に対応することができる集約・複合施設として整備する。 アリーナには、センターハングビジョンやリボンビジョン等の大型映像設備や音響・照明設備を配置し、観客の「観る」体験の魅力向上を図る。また、トイレの混雑状況の可視化、キャッシュレス決済、駐車場管理システムなどにより施設の利便性向上を図る。 さらに、災害時には受援のための活動拠点や支援物資の輸送拠点等として活用する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【多目的屋内施設整備費】 実施設計 0千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【大型映像設備整備費】 実施設計 0千円 ※本事業では、R6年度は事業者への支払いは発生しない。 		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口・世帯数（若者世代（20～39歳）の転出超過数）（▲1,300人） ②市民意識調査で「中心市街地のにぎわいが5年前と比べ増している」と回答した市民の割合（+4.5%） ③多目的屋内施設利用者数（+223,600人） ④多目的屋内施設におけるBリーグの平均入場者数（1試合あたり）（+4,640人）		関連URL https://www.city.toyohashi.lg.jp/57264.htm

事業概要【大治町スポーツセンターリノベーション事業】

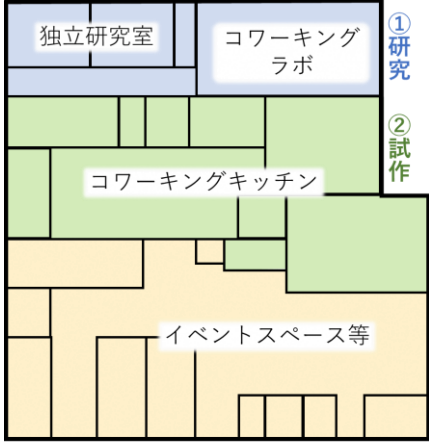
拠点当初

申請者	愛知県大治町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	619,177千円 (19,800千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	更なる町の発展と人口増を目指すための核として、従来のスポーツ施設としての機能に加え、「子育ての拠点」、「健康の拠点」、「交流の拠点」として整備することで、スポーツセンター全体を町の魅力的なシンボルとしての「多機能複合型交流施設」となることを目指します。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	子どもが体を動かす機会を創出する場として、「子どもの居場所」施設の整備、交流を創出する場として、「カフェ・物産コーナー」の整備、町民の運動習慣・健康意識定着のきっかけとなる場としての「スタジオ」の整備を実施。 また、マイナンバーカードを活用した入退場管理システムを構築することにより、気軽に利用者が入退場できるほか、施設管理の負担軽減を図る。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【実施設計費】19,800千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域の人口・世帯 (+600人) ②リノベーション後の施設利用者数 (+70,276人) ③リノベーション後の施設の事業収入 (+68,746千円) ④リノベーション後の施設を利用したイベント開催数 (+50回)	関連URL	https://www.town.oharu.aichi.jp/4344.htm

申請者	三重県津市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R10年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,919,782千円 (68,298千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	中心市街地に近接して位置する既存競技場を、大規模スポーツ大会やスポーツ合宿を呼び込むための屋外スポーツの拠点施設として再構築することに加え、同施設を拠点としたスポーツコミッション体制を構築して観光資源等を組み合わせたスポーツツーリズムを推進することにより、スポーツ関係者の来訪を呼び込むとともに、従来通過型の来訪者を立寄型・宿泊型へ転換して交流人口を拡大し、更には本市の魅力を発信してリピートに繋げて稼ぐ力をつけ、従来取り組んでいる定住増加策との相乗効果により、定住人口の増加に繋げ、市全体の地域再生を目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	津市海浜公園内陸上競技場を本市の屋外スポーツ施設の拠点として、域外からの広域的な大会や合宿誘致が可能となるよう、サッカーを始めとした多目的に利用可能なスタジアムや駐車場を整備する。施設内には、新たに市民の健康増進、体力維持のためのランニングロードを整備する。 また、スポーツコミッション窓口の機能を備えた管理棟を整備する。さらに、競技場内に自動撮影可能なAIカメラ等を設置し、大会や合宿の撮像を活用した試合の分析や選手の動きの解析ができるなど、会場の魅力向上を図る。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 (R6) 【実施設計業務】 68,298千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①津市の人口 (▲6,874人) ②津市海浜公園内陸上競技場への来場者数 (会議室含む) (+69,000人) ③津市海浜公園内陸上競技場における合宿及び大会、記録会 (+40回) ④域外からの宿泊客数 (+3,500人)		関連URL 調整中

事業概要【京都府プレミアム中食オープンイノベーションラボ整備事業】

拠点当初

申請者	京都府	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,085,953千円 (30,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	農林水産分野
目的 (効果)	高機能性中食など加工食品の開発拠点となる京都府プレミアム中食オープンイノベーションラボを整備し、地域の食材、食文化、中食開発技術を結びつけ、地域ブランド中食を生み出すことにより、農林水産業を含む食関連産業の成長産業化を図る。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	「京都食ビジネスプラットフォーム」から生まれたアイデアなどの商品化に向けた試作品の作製、機能性成分の分析、品質の評価等を通じ、府内産農産物を活用した中食向け機能性食品などの開発を支援するための拠点を整備。 ①加工技術研究 (独立研究室・コワーキングラボ) ②試作品作製 (コワーキングキッチン) ③ニーズ調査・異業種交流 (イベントスペース等) 加工技術研究室に食感や、におい、うまみ成分、機能性分析などが可能な分析機器や物性の調査機器を導入し、分析結果の数値をデータベース化することで、効率的な商品開発を可能とする。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) 基本設計・実施設計 30,000千円  ①研究 ②試作 ③交流 独立研究室 コワーキングラボ コワーキングキッチン イベントスペース等 平面イメージ  開発商品イメージ		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①山城地域12市町村の農業産出額 (+7億円) ②本施設を利用する食品加工業者数 (+3,000団体) ③本施設を利用して事業化された加工食品の販売金額 (+600,000千円) ④本施設を利用する農家数 (+1,500人)		
	関連URL	(交付金の具体的使途・実施体制) 調整中 (効果検証) https://www.pref.kyoto.jp/shingikai/keikaku-03/index.html	

※PFI活用

申請者	兵庫県三木市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円(136,500千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	まちづくり分野
目的（効果）	高度経済成長期に開発が進んだ緑が丘・青山地区郊外型戸建住宅団地まちびらきから50年が経過し、「人口減少」「高齢化」「空き家」などの課題が浮かび上がり、ライフステージに応じた住み続けられるまちづくりに向けた団地再生事業として、公民連携によりそれぞれの強みを生かした役割分担の中で、100年先も住み続けたいまちの魅力につながる拠点を整備するとともに、住み替える仕組みを構築し、民間投資を促す戸建て住宅団地の再生を図る。		
整備内容・利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	交流拠点において、新しい働き方(テレワーク等)や、多世代が交流、先端技術等を有する企業誘致に加え、デジタルとリアルをつなぐフィールドとして、地域課題解決型官民連携実証事業等、まちの魅力向上を図り、民間企業の投資を促す。拠点から地域の課題解決にむけた市内事業者×市外事業者による新たな稼ぐ力の創出を図る。 交流拠点にて、大学と連携し、生成AIを搭載したロボットを介した新しいコミュニケーションの実証実験や、匂いのデジタル化技術の研究を行う企業が匂いの転送と映像を繋ぐ商品開発等を行う。また、スマート行政ステーション（交付対象外）を整備し、ICT、DXを活用して行政職員を配置せずに行政サービスの一部を受けられるようにする。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 136,500千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①緑が丘・青山エリアにおける人口(+200人) ②新たな課題解決型サービスに係る公民連携事業実施数(+33件) ③テナント利用率（+100%）	関連URL	https://www.city.miki.lg.jp/site/re_nkei/29999.html



地域コミュニティのアップデートや働く場や賑わいの創造に合わせた域内外から移り住む仕組み戸建住宅団地の再耕による持続可能なまちづくりにチャレンジする。

※PFI活用

申請者	岡山県津山市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	766,760千円（17,218千円）
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	津山市は、史跡津山城跡や衆楽園、2つの重要伝統的建造物群保存地区などにおいて、歴史的な文化財や古民家が多く現存する「歴史と文化の薫る城下町」です。これらは観光資源として活用することで、観光客には特別な体験を提供することができますが、この潜在的なポテンシャルが十分に活かされていません。文化財や古民家を用いて津山市観光のブランディングを図ることで、観光産業の底上げによる地域経済の活性化を目的とします。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本事業は、「津山城・城下町泊」と題し、津山市内に点在する文化財を連携させ、1つのホテルに見立てて活用する「小規模分散型ホテル」の整備です。本事業では第1期工事として、津山城の鶴山館、衆楽園の余芳閣および迎賓館、城東地区の旧梶村邸を宿泊施設ならびにレストランとして活用します。 宿泊施設には、デジタルコンシェルジュによるAIチャットボット機能や顧客管理システムによるオンライン予約システムを導入し、業務の省力化を図るとともに、集約した顧客データを用いたさらなる効率的な運営や集客につなげる。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】建築物本体設計委託料 11,623千円 【建築物と不可分な設備工事】設備設計委託料 5,595千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額（+1,450円） ②津山城に入園するインバウンド数（+1,450人） ③観光入込客数（+1,300千人） ④観光センター売上高（+2,500千円）	津山城と城下町 客室イメージ 関連URL	迎賓館レストランイメージ 旧梶村邸の庭園の眺め 令和6年度公表予定

事業概要【広域連携拠点施設（熱利用施設）整備事業】

拠点当初

申請者	岡山県笠岡市，井原市，浅口市，里庄町，矢掛町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,637,550千円 (64,898千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	地方への人の流れ分野
目的（効果）	本施設において3市2町が人口減少や高齢化率の高まりによって抱える4つの課題（健康寿命の延伸，新たなコミュニティの形成，交流人口の拡大，学校施設の老朽化と水泳授業における課題）を解決し，地域の魅力を高める。自治体の枠を越えた新たなコミュニティの形成や住民間の交流を活発化することで地方創生として目指す「生涯活躍のまち」を実現し，圏域への人の流れを創出する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	本施設は3市2町が岡山県西部衛生施設組合の施設として整備する。隣接地に建設中の新ごみ焼却施設から発生する熱を供給し，温水プールや温浴施設等の熱源として利用する。圏域内企業の健康経営のサポートを行うほか，子ども達が天候に関わらず運動できる場を提供する。温水プールでは18校の小中学校の水泳授業を予定している。また，都度利用しやすい料金設定や，3市2町の観光施設と連携したイベントの実施等により圏域外からの交流人口の拡大にも寄与する。 本施設の受付にスマート窓口システムを導入することにより，利用登録から決済までをスマートフォンで完結できるようにし，利用者の利便性向上を図る。また，利用者の遊泳状況を把握できるスマートプールシステム「nagi」の導入により，遊泳距離や速度の把握，利用者の安全性向上を図る。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容（令和6年度） 【調査・設計】設計業務委託料 64,898千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①3市2町のUIターン者数（+103人） ②3市2町における健活宣言企業数（+23社） ③圏域内観光拠点の入込客数（+100千人） ④本施設の年間利用者数（+1,141百人）	関連URL	（交付金の具体的使途・実施体制） https://seibueisei.or.jp/facility/kouiki-renkei/ （効果検証） https://www.city.kasaoka.okayama.jp/



事業概要【瀬戸内市産業振興拠点施設「地域と人が紡ぐ しごと創造空間」整備事業】

拠点当初

申請者	岡山県瀬戸内市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	725,007千円 (38,073千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	ローカルイノベーション分野
目的 (効果)	市中心部に地域の人材や資源が集い、交流する産業振興拠点施設を整備し、日常的に地域産業と関わりをもつ「場所」と「機会」を提供することで、地域を支える事業者・就業者の課題解決に取り組み、若者世代をはじめとした次代を担う人材の確保・育成と地域産業の持続的発展を目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	拠点施設において、商工会等の支援機関と連携した事業者・就業者に寄り添った支援、全天候対応型イベントスペースやコワーキングスペースとシェアオフィスの機能をあわせ持った多様な働き方を実現する空間を整備することで、事業者同士の交流によるオープンイノベーションの活性化やIoTやAI等のデジタル技術を活用できる人材の地域への定着を促し、地域全体の労働生産性の向上を図る。 また、市のこれまでの取り組みによって地域内に誘致した先端技術を有する企業と連携し、デジタル技術を活用した課題解決セミナー等を開催することで、デジタルソリューションの普及推進及び地域産業におけるDX化を促進する。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築物本体】 実施設計 32,711千円 ○効果促進事業 (ハード事業) の内容 【外構整備】 実施設計 5,362千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①地域における新規雇用者数 (+185人) ②施設利用者数 (+42,000人) ③地域における新規創業者数 (+10人) ④若者世代の社会増減数 (+90人)	関連URL	(実施体制) https://www.city.setouchi.lg.jp/soshiki/22/139400.html (効果検証) 調整中



拐点当初

69

申請者	広島県東広島市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	608,823千円 (6,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	里山資源の新たな活用、デジタル機器を活用したものづくりの推進、デジタルの学びの場の提供や、ものづくりの文化を次世代に伝えていくためにデジタル教育と自然資源を組み合わせる取組みを行うなど、豊かな自然と現代のテクノロジーとの融合を図る生活価値創出拠点として、地域の廃校を改修整備・再活用する。「生活デザイン・工学研究所」により、拠点に集う人や企業の様々な活動を通じて、地域内外の交流促進・魅力発信等を図り、交流・関係・移住人口の増加につなげ、持続可能な地域づくりを目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	コミュニティスペースやテナントオフィス・コワーキングスペース、学び、宿泊等の機能を持たせた拠点「福富みらいベース」として廃校を改修整備し、地域内外の人が気軽に集える場とする。学びスペース（デジタル・エネルギー・ものづくり）には、デジタルファブリケーション機器等を設置し、里山ならではのデジタル教育を受けられる、新たなものづくりができる環境を整えるとともに、藻類培養実証研究やEVなどエネルギーの多様性についてのパネル・藻類の実物展示のほか、藻類からの燃料抽出体験等を行うことで、利用者増加や魅力向上を図る。 オンライン予約システムやスマートロックシステムを整備することで、利便性の向上につなげる。また、本施設の利用者等の移動を支えるため、地域の実情に合ったモビリティサービスを検討する。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 設計費 6,000千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始5年後の「KPI増加分」の目標値	①福富地域の人口（+0人） ②福富みらいベース利用者数（+12,000人） ③デジタル教育プログラム参加者数（+1,500人） ④テナントオフィス稼働率（+100%）	関連URL	調整中



事業概要【道の駅「来夢とごうち」を核とした観光拠点形成事業】

拠点当初

※PFI活用

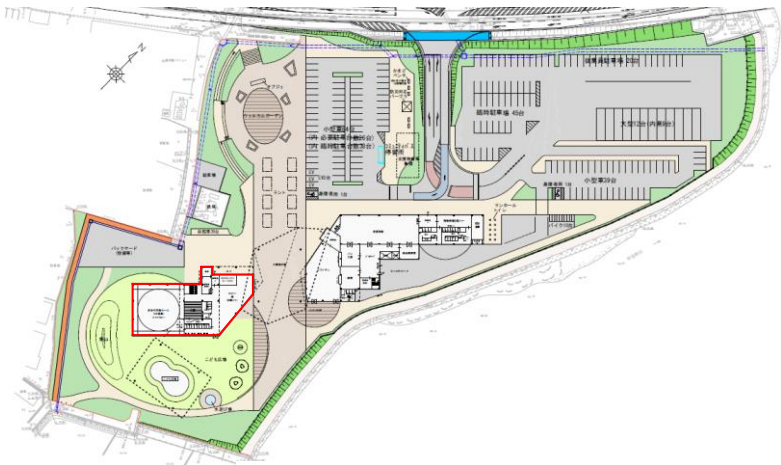
申請者	広島県安芸太田町	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,097,349千円 (29,480千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	JR可部線が廃線となり、町内各地を訪れる機会が失われ観光消費額が減少傾向にある中、現状の道の駅は物販や観光情報の提供を行う駅舎の老朽化も進み、来客者の居心地の悪化を招いていることから、本町の玄関口にある、産直、物販、レストラン等の機能をもった「道の駅」をリニューアルし、魅力的な地場製品の販売や食の提供等を通して町内事業者の所得向上を図るとともに、町内観光資源のつなぎ手となり町内各地へ経済波及効果をもたらす拠点施設とする。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	物販、飲食、情報提供、子育て支援、二次交通等の機能を一体的に整備し、集客性・回遊性向上を図るとともに、町内周遊観光を促す拠点機能を強化する。 運営面では、顧客情報 (CRM) と売上情報 (POSレジ) のクラウド型統合システムを導入することにより、顧客ニーズに合った効果的なサービスを提供するほか、地域通貨moricaとの連携により、キャッシュレス化を牽引する。また、セルフレジの導入により、施設の省人化・省力化を図る。 さらに、特別名勝「三段峡」を疑似体験できる多言語対応VR映像コンテンツを展示するほか、AI搭載自動翻訳機能付きデジタルサイネージの導入により、インバウンドを含む観光の動機付けや観光エリアとしての魅力増進に寄与する。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【設計業務】 実施設計費 29,480千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額 (+ 252,496千円) ②観光客数 (+ 132,308人) ③道の駅利用者数 (+ 160,654人) ④道の駅売上高 (+ 195,654千円)	関連URL	調整中



事業概要【川崎町道の駅を核とした 多世代が出会い、つながり、交流する
～くらしの真ん中「まちのリビング」創出事業～】

拠点当初

申請者	福岡県川崎町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R9年度	期間中の交付対象事業費 (カッコ内はR6年度事費)	579,748千円 (8,853千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	まちづくり分野
目的 (効果)	本町の中心を通っている国道322号バイパス沿いに、全天候型屋内遊具施設等の機能をもった道の駅を整備し、子育て環境の充実を図り、子育て世代のさらなる転入を促すとともに、町内経済の活性化と若い世代に魅力的な雇用創出、Uターンの促進、移住定住の促進、町の魅力を高めるプロジェクト等を積極的に推進し、地域の人口、地域の世帯数の増加を図る。		
整備内容・ 利活用方策	道の駅において、全天候型屋内遊具施設を建設するものである。本町では、様々な子育て支援施策を実施しているが上手く情報を発信できていない状況であり、本施設を子育ての情報発信拠点に位置づけ、デジタルサイネージ等のデジタル技術を活用し、子育て支援施策を直接利用していない世代や町外者へ向けて広く情報発信を行う。メタバースやオンライン会議システムを利用した相談受付を行うほか、AIカメラによる混雑状況の可視化システムを整備し、オンライン上での混雑状況の確認を可能にし、利用客の満足度向上を図る。 ○施設整備等の内容 (設備整備・用地造成を除く) 【設計業務】8,853千円		
KPI	①地域の人口数 (+32人) ②年間来場者数 (+95,000人) ③交流人口数 (+80,000人) ④年少人口 (0～14歳) の社会増減数 (+9人)	関連URL	https://www.townkawasaki.com/



※基本設計中のものであり、変更する場合があります。

申請者	佐賀県唐津市	初回採択回	令和6年度第2回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	1,000,000千円 (208,000千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ（当初予算分）	事業分野	観光分野
目的（効果）	老朽化が著しかった唐津曳山展示場の改築により、ユネスコ無形文化遺産である唐津くんちの曳山を保存・展示するに相応しい新曳山展示場を整備し、デジタル技術を取り入れた効果的でインパクトの高い情報配信を行うことで、新たな唐津の歴史・文化・まちの拠点を つくるもの。		
整備内容・ 利活用方策	新曳山展示場はくんちシアターやくんち体験コーナーなど、デジタル機能を活用しながら現代のニーズに対応する展示手法を採用し、ユネスコ無形文化遺産である唐津くんちの曳山行事を紹介するに相応しい機能を持つ展示場の整備を実施するもの。 QRコードを活用した多言語表記への対応による曳山の詳細解説や体験施設で映像とエフェクトを通して、施設を訪れた方に唐津くんちの曳山巡行を実際に体験していただくなどにより、唐津くんちを広く国内外に発信していく。 ○施設整備等（設備整備・用地造成を除く）の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 200,000千円 ○効果促進事業（ハード事業）の内容 【展示制作費】 展示制作費 8,000千円 ●令和6年度補助対象事業費 建築工事費、展示制作費 計 208,000千円		
KPI	①地域における観光消費額（+501,000千円） ②新唐津曳山展示場（仮称）の入場者数（+56,647人） ③新唐津曳山展示場（仮称）デジタルスタンプラリーのチェックイン人数（+25,000人） ④新唐津曳山展示場（仮称）の入場者におけるくんちシアターと体験コーナーへの入館率（+90%）	関連URL	調整中



申請者	長崎県対馬市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	453,399千円 (255,894千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	「国境の島 対馬」に紐付くあらゆる“ここにしかない”資源を活用した学びの観光拠点を整備しSIT (スペシャル・インタレスト・ツアー) による持続可能な観光と観光消費額の拡大を図ることに加えサーキュラーエコノミーの実現に向けた発信拠点として【マイナスの資源 (海洋プラゴミ) を富に】転換していく取組みを推進する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	あそふベイパークにおいて学びの観光拠点「学ぶ観光キャンパス」整備による観光情報等及び海洋プラゴミ問題を発信するインフォメーション機能の整備、体験コンテンツの造成、地元製品の販売等により観光誘客による消費拡大とスタディツアー等の滞在拠点として企業間連携を構築し企業版ふるさと納税等の財源確保を促進する。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築物本体工事】 建築工事費 224,250千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備工事費 14,096千円、機械設備工事費 17,548千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①地域における観光消費額 (+ 250,000千円) ②観光客実数 (+ 100,000人) ③利用者数 (キャンプ施設) (+ 4,248人) ④対州馬曳き馬体験者数 (+ 1,400人)		関連URL 調整中

事業概要【宿泊交流拠点整備による交流促進プロジェクト】

拠点当初

申請者	熊本県津奈木町	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R7年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	630,000千円 (394,792千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	つなぎ温泉四季彩を宿泊交流拠点として整備することで、地域資源を活用した交流の促進やフロント的機能の拡充、地域の滞在力を向上させる。また、宿泊交流を基軸として近隣エリアとの連動性や広域エリアとの回遊性を高めることで経済的波及効果をもたらす。さらに、サテライトオフィスなどIT人材と地域産業が連携する空間を提供することで、観光業だけでなく多様な産業のデジタル活用を促進する。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	つなぎ温泉四季彩管理棟に新たに宿泊、飲食、物販、サテライトオフィスを設け、宿泊交流拠点としてリノベーションする。宿泊交流を基軸として観光業の活性化や新たな観光産業への参入を促進する。またICTを活用したサービスの創出や地域ブランディングを推進し、起業や雇用の創出に繋げる。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築工事費】 215,246千円 【建築物と不可分な設備工事】 電気設備46,551千円 給排水設備110,495千円 【工事監理】 22,500千円		
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①観光消費額 (全体) … (+183,868千円) ②観光入込客数 (宿泊) … (+2,000人) ③宿泊付アートツアー造成数… (+10件) ④サテライトオフィス入居企業数… (+3社)	関連URL	https://www.town.tsunagi.lg.jp

申請者	大分県由布市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6-R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	437,388千円 (18,952千円)
事業タイプ	地方創生拠点整備タイプ (当初予算分)	事業分野	観光分野
目的 (効果)	道の駅ゆふいんは、高速道路湯布院IC、国道210号、県道別府湯布院線 (通称やまなみハイウェイ) に接続する立地特性を活かし、すでに観光地として確立されている湯布院町のみならず、由布市全体へ来訪者をつなぐ「由布市のゲートウェイ機能」を成し遂げる道の駅を目指す。		
整備内容・ 利活用方策 ※経費内訳はR6年度事業費	道の駅の物産館建て替えによる利便性・快適性向上や、デジタル技術を活用した円滑な業務推進・情報発信の推進を行うとともに、駐車場整備による受入れ体制の強化を図る。 ○施設整備等 (設備整備・用地造成を除く) の内容 【建築物本体工事】 24,000千円 ・実施設計業務委託 1式 18,952千円 【合計】 18,952千円		■物産館イメージ   
KPI ※カッコ内の数値は供用開始年度から5か年分の「KPI増加分の累計」の目標値	①由布市の観光消費額 (+40億円) ②道の駅ゆふいんの物産館年間売上額 (+2,870万円) ③道の駅ゆふいんの年間利用者数 (+21.62万人) ④デジタルコンテンツ利用者数 (+30千人)		関連URL 調整中